

第17回(2)教育委員会(定)

開会日時 令和2年 8月 6日(木) 午前 10時00分
閉会日時 午後 01時57分
開会場所 第一委員会室

出席者

教 育 長	中 川 修 一
委 員	高 野 佐紀子
委 員	青 木 義 男
委 員	松 澤 智 昭
委 員	長 沼 豊

出席事務局職員

事務局次長	藤 田 浩二郎	地域教育力担当部長	湯 本 隆
指導室長	門 野 吉 保	教育総務課長	近 藤 直 樹
地域教育力推進課長	諸 橋 達 昭	中央図書館長	大 橋 薫

署名委員

教育長

委 員

午前 10時 00分 開会

教 育 長 おはようございます。本日は、4名の委員の出席を得ましたので、委員会は成立しております。

それでは、ただいまから、7月30日の継続として、令和2年第17回（2）の教育委員会（定例会）を開催いたします。

本日の会議に出席する職員は、藤田次長、門野指導室長、後ほど、入れかわりで出席予定が、湯本地域教育力担当部長、近藤教育総務課長、諸橋地域教育力推進課長、大橋中央図書館長、以上6名でございます。

本日の議事録署名委員は、会議規則第29条により、高野委員にお願いいたします。

本日の委員会は、15名から傍聴申し出がなされており、会議規則第30条により許可しましたので、お知らせいたします。

本日の会議時間は、板橋区教育委員会会議規則第11条に基づき、通常は正午までのところを午後3時までと変更いたします。

本日の会議では、次第の順番とは前後しますが、初めに7月30日開催の第17回教育委員会で審議を行った、日程第十二 議案第37号「令和3年度区立小・中学校使用教科用図書の採択について」を継続して審議いたします。

また、議事運営の都合上、日程第十二 議案第37号及び日程第一～日程第十一、請願第1号～請願第11号「板橋区の中学校教科書採択に関する請願」の審議を行った後、暫時休憩を挟み、残りの議案の審議及び報告事項の聴取を行いたいと思います。

○議事

日程第十二 議案第37号 令和3年度区立小・中学校使用教科用図書の採択について

(指導室)

教 育 長 それでは、議事に入ります。日程第十二 議案第37号「令和3年度区立小・中学校使用教科用図書の採択について」、審議いたします。

それでは、前回は「保健体育」まで審議いたしました。本日は「技術・家庭（技術分野）」から審議いたします。指導室長から説明をお願いいたします。

指 導 室 長 「技術・家庭（技術分野）」につきましては、3社でございます。

「東京書籍」、「教育図書」、「開隆堂出版」から採択をお願いいたします。

教 育 長 それでは、審議に入ります。

それでは、高野委員、よろしいでしょうか。

高 野 委 員 3社の教科書を読み比べましたが、各社ともに、写真やイラストを効果的に使っており、大変分かりやすく、丁寧で、安全に対する配慮なども素晴らしいと思いました。

3社、本当に内容がどれもよかったですのですが、その中で、私は、目次と技術分野のガイダンスが充実しているという点で「東京書籍」を選びました。

まず、教科書を開いてすぐの目次なのですが、ここが横軸に1編から4編まで、そして縦軸に、1「見方・考え方について」、2、「問題を発見し、解決する」、3「これからの技術について考える」ということで、3年間でどんなことを、内容を深めながら学習していくのかということの見通しが立つという点が大変素晴らしいと思います。

そして、その後のガイダンスなのですが、まず、学習方法や安全に対して説明をした後に、6ページで、身近な製品にはどんな工夫があるのかということ、カッターナイフですとか、缶のステイオンタブなどを紹介しています。その後に、12ページから「技術の最適化って何だろう」ということで、漫画で説明が書かれています。

本当に分かりやすい漫画で、私もなるほどと、内容がよく理解できました。中学生にとっても、とても参考になるのではないかと思います。

戻って、11ページのところの方の「最適化の窓」というので、「技術の見方・考え方」を使って色々な面からのぞいて、それを開いてみると、「現代の技術・未来の技術」が書いてあります。生徒が技術で学習するゴール、目標ということ意識できるのではないかと思います。

また、各編の初めのところに、ここで取り上げた最適化のページがあって、例えば19ページの1編では、ペットボトルですとか、3Dプリンタ、スカイツリー、あと、199ページの4編では、ドローン、自動運転、POSシステムなど、これから学ぶ内容について興味・関心を高める内容となっています。

2番目にこの教科書が良いなと思ったのは、PDCAの流れが分かりやすく明記されている点です。

各編の2章は、例えば38ページの2章の第1のところは、「問題を発見し、課題を設定しよう」ということで始まります。

「設計・計画」、「製作」、「評価、改善・修正」、「新たな問題の発見」という順に進められますが、それが右のページの上のところに問題解決のプロセスの流れがバーになって示されています。生徒たちがどの段階の学習をしているのかが一目で分かるようになっています。

また、「テクニック」というところで、基礎的な技術がまとめて記載され、製作、のときに確認できるというつくりになっています。例えば、50ページの「テックラボ」というところで、ここでは木工のけがき、切断、部品加工などのテクニックが横棒に示されて、それぞれ、その後ろのページで詳しく説明されています。

資料が充実している点も大変素晴らしいなと思いました。

258ページに「プログラミングで未来を創る」というページがあるのですが、プログラミングを学んだことを実社会でどのように生かしていくかということ、ほかにも156ページでは新幹線の記述、270ページなどでは知的財産権などについても述べられています。

最後に、264ページから「総合的な問題解決をしよう」というページがあるのですが、これまで4編で学んだ4つの技術を単独で活用するのではなくて、結びつけてシステム化するということで、可能性が広がるという勉強、3年間の総まとめのようなページがある点も良いなと思いました。

以上の理由で、私は「東京書籍」を推薦したいと思います。

教 育 長 ありがとうございます。

それでは、松澤委員、お願いいたします。

松 澤 委 員 私も、3社の中から、調査報告書等を見させていただきまして、「東京書籍」と「開隆堂」を重点的に見させていただきました。まず、「東京書籍」と「開隆堂」の中で、生物の育成について詳しく見ていったのですが、「東京書籍」の方は100ページ、「開隆堂」も同じ100ページのところを見ても、作物の栽培についても、古いタイプの栽培方法と新しいタイプの栽培方法であったり、動物、水産についてもそのようなことが述べられているのが「東京書籍」になっておりまして、よかった点としましては、実際の生産者の声を載せている点が、一番、私は良いかなと思いました。

次のページへとずっと続いていくのですが、その後、「東京書籍」は106ページ、「開隆堂」は118ページ、こちらのところは栽培カレンダーが載っているのですが、これで1点、気づいたところは、寒冷地と暖地のものが大体載っているのですが、「東京書籍」は中間地というもので3種類載っているというところが非常に良かったことと、見やすいという点もあったかと思います。このような情報データについては、ほかにも幾つかあったので見たのですが、「東京書籍」の方が見やすいような印象を受けました。

「開隆堂」が114ページ、「東京書籍」は128ページ、問題の解決の視点が若干違うように思えたのですが、問題解決のところが、生産技術向上についても、問題解決について、「開隆堂」は技術的なサポートに対して中心にしていたのに対し、「東京書籍」は、もう少し幅広い分野についての問題解決、農業全般の問題についてを述べていると感じました。

そのような点はほかのところよりも見受けられまして、例えばDマークのコンテンツ、動画を見てみたのですが、「東京書籍」は、ロボット搾乳機を使ったりしている生産者の話などが出ていて、新しい技術の導入についてのお話などもしていました。「開隆堂」の動画は、どのように植えつけるかなどの生産技術ですね、そのようなものに対するものなので、視点が若干違うというか、細かい点を重視するか、未来のことを重視するかという点が違ったように思います。

私も、高野委員と同じように、先ほどの総合的な問題解決のリノベーションのところですか、知的財産のところは非常に良いなと感じました。その中に、194ページの「スマートシティ構想」がありまして、その話などは、SDGsにもつながって非常に良い部分なのかなと思いました。

各出版社にとって、視点が違ったり、技術分野のどこにある程度力を入れるか

というところも若干違うように思うのですが、私は、今後の子どもたちに必要な分野としては、新しい分野を少しずつ取り入れながら、今までの伝統技術も深めていていただきたいなと思いますので、総合的に見て、「東京書籍」がよろしいのではないかなと思いました。

以上です。

教 育 長 ありがとうございました。
 それでは、長沼委員、お願いいたします。

長 沼 委 員 日程が改まりましたので、改めまして私が教科書採択に当たって判断をした観点について簡単に申し上げます。

前回、冒頭で申し上げましたが、1点目は分かりやすさということで、新しい学習指導要領では、身に付けさせる資質・能力を明らかにするということが言われていますので、それがきちんとできる教科書を選ぶということですね。

それから、主体的・対話的で深い学びを実現するという、これも課題ですので、それができる教科書ということです。

2点目に、開かれた教育課程ということで、保護者、地域の皆さんにご理解していただける教科書を選んでいきます。

3点目は、板橋区の状況、生徒たちの状況に合わせて選ぶということがあります。

4点目は、先生にとっても指導しやすい教科書かどうかということで、特に若い先生が増えてきていますので、これらに対応ができるかどうかということでございます。

この4点は、昨年の小学校の教科書採択でも申し上げたのですが、さらに2点加わりまして、1点はGIGAスクール構想が一気に入ってきて、1人1台という時代、これに対応できるかどうかということが1点目。

2点目が、残念ながら新型コロナウイルスの感染が広がってきていて、場合によっては来年度も休校の措置がとられる可能性もないわけではない。そうすると、生徒たちが自分で教科書を見て自己学習をしていくこともあり得る。それに適応できるかどうかという点も必要かと思いました。このような観点で採択に臨んでおります。

「技術・家庭」につきましては、「技術分野」の学習指導要領の目標が「技術によって、よりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成する」と書かれていますので、よりよい生活に関わること、それから「持続可能な社会」と書かれていますので、そのような視点を持てるかどうかというのをポイントとして考えました。

それらの点を考えても、どの教科書もよくできていて、非常に見やすく、写真もきれいだったので、私も、2社選びました。

1つは、「東京書籍」ですね。今申し上げた生活に即したもの、こと、観念、それから、持続可能な社会というのを見据えてつくられているなという印象を持

ちました。

また、先ほど申し上げた主体的・対話的で深い学びにつながるような、話し合い学習などもしやすいものに仕上がっていると受け取れました。これは、お2人の委員と全く同じ意見です。

それから技術に関しては、当然、安全面への注意が必要で、これはもちろんほかの出版社もそうでしたが、安全マークというのが随所に盛り込まれていて、特に注意すべき点について、生徒たちが見て分かる、あるいは先生もそれをきちんと把握して指導ができるという点でも優位性があると考えました。

巻末に、切り取りができる形での「今すぐできる！プログラミング手帳」というのがありまして、当然のことながら、プログラミング教育は技術だけではなくて、様々な教科で活用しますので、これを切り取ってほかの教科の授業でも扱うことができるという点も大変優位性が高いと思いました。

また、板橋区で力を入れているSDGsについても、「SDGsとTechnology」というのが巻末に盛り込まれています。もちろん、それ以外のページもそのような視点を感じることができる教科書でした。

細かい点なのですが、「東京書籍」のこの工夫というのも、背表紙のこのここに恐らく名前を書くのではないかと思うのですが、これは恐らく「置き勉」に対応しているのかもしれませんが。ここに名前を書いて並べておけば、すぐ手に取れます。家庭の方もそうなのですが、「東京書籍」の、ほかの教科は入ってないのですね。あえてここに記名欄があるというのは、分かりませんが、もしかしたらそういうことかもしれません。そういう配慮がなされているというのが1点と、それから、これも遊び心だと思うのですけれど、右側のページにパラパラ漫画が入っていて、非常に興味を引くのですよ。

私も、まさかパラパラ漫画とは思いませんでしたが、あえてこれを入れ込んである遊び心、こういうところで生徒たちの興味・関心を引こうというところがある一方で、ただのお遊びではなくて、パラパラ漫画の最後のおちが「技術は夢をかなえるためにある」とが書かれていて、これは恐らく作り手のメッセージがここに盛り込まれているのかなと思い、些細なことですが、このような工夫もあって非常に良いなと思いました。

1点がこれです。

2点目は、松澤委員と同じで、「開隆堂出版」を選びました。

こちらは「東京書籍」に比べてややシンプルなつくりですが、シンプルイズベストということもありまして、分かりやすく網羅されています。大事なところは太字で文字が強調されておりまして、それから、先ほど申し上げた安全性への配慮や、コンピューターですね、プログラミングに対する注意、安全面、先ほども申し上げましたけれど、マークに「注意して学習しよう」というマークがあるなど、随所に工夫がされていました。

また、これはどの出版社とも同じなのですが、各単元の初めに、小学校との関連ですとか、中学校の他教科書とのつながり、関連、これが記載されていて、いわゆる教科横断的な学習にも資することができる教科書でした。

漫画なども多用され、生徒たちがイラストで登場するあたりも工夫されていて、生徒目線で読み解くことができるということが大事なことかなと思うのですね。板橋区では「読み解く力」ということを大事にしておりますので、今後、この技術の時間であっても、この教科書を利用してしっかりと読み込んで、そして実技をするということも求められますから、「開隆堂」も非常に使いやすいと思いました。

以上、2社を挙げましたが、どちらかというところ「東京書籍」を推したいと思っています。

以上です。

教 育 長 ありがとうございます。
それでは、青木委員、お願いいたします。

青 木 委 員 「技術分野」については、私の専門性に近いところがありまして、3社全部見させていただいて、非常に3社とも特徴もあります。

「教育図書」は、かなり厚い教科書になっており、情報量としては非常に多い。細かい専門性の高い情報がたくさん載せられているといったところは注目すべき点になると思います。

「開隆堂」も同様で、非常に情報量等も多く、私も興味深いところは、自宅でも付箋をたくさん貼っているのですが、専門性の高さというところでは、例えば木工や技法に対しても、細かい指導をきちんと網羅しているという点も非常に評価できると思いました。

さらに、166ページの「電気の利用」といったような、回路計の使い方を説明していて、その次の175ページでは、共通部品などを細かく説明、特殊な例示等で説明していたりするというようなこと、さらには、その後ろで、「情報通信ネットワークのしくみ」、「情報セキュリティ」といったところまで踏み込んでいるという点では、非常に専門性が高くて、ぜひ中学生ぐらいにこのぐらいまで学んでもらえたらなど、個人的には思っています。

ところが、だんだん高等教育に近づくにつれて、技術系というのに興味のある人は少なくなっていく世の中の現象がございますので、そのような意味では、皆さんがおっしゃっていたとおり、分かりやすさということと興味・関心を高めることが中学生レベルでは大事なのかなと思いました。

先ほど長沼委員がおっしゃっていたように、「置き勉」というようなお話があるとすると、技術分野の教科書は、ひょっとして学校に置きっ放しになるのだとすれば、あまり専門性が高いというだけでは生徒たちの興味・関心は高められないのかなということが、気にかかりました。

そのような点で、「東京書籍」を見ると、興味・関心は別として、最初、学習方法などのガイダンスが非常に充実していると感じました。特に3ページにある「技術分野の学習方法」の考え方、技術分野は、私の個人的な見解では、「プロジェクトスタイル」だと思っています。長い時間をかけて、ある時間の中で、み

んなで議論して良いものをつくっていくというのが最終目的とすると、ここにあるようなブレンスストーミング、フィールドワーク、まとめの発表の仕方、この辺が一番大事になってきます。プレゼンテーションも含めてです。

さらには、技術、安全に楽しく進めようというような視点、安全教育のことですね、ここも非常に分かりやすく書いてある。先ほど高野委員が言われた「技術の最適化」のお話、ここもアニメーションで説明しているようなところも、分かりやすく書いてある点でよかったですと思っています。

そのほか、注目すべきところを「東京書籍」で挙げるとすると、34ページ、「強度設計の概念」です。丈夫な製品の作り方。これは非常に大事なのですが、これはもう理科などの教科でもきちんと勉強はしておらず、強度設計の概念がほとんどない学生が多いです。そのような意味では、中学生でこのような基本的なところを、興味・関心の中である程度意識づけていることが大事だと思います。

そして38ページ。「材料加工の技術による問題解決」「問題を発見し、課題を設定しよう」。日本というのは技術的国家だとすると、ということで、この辺の大事な基本のところをきちんと説明しようとしている。

また、個人的に、ここに目を付けたのかと思ったのは、実は43ページ「正投影図の書き方」です。実はここで、もうほとんど世の中で使われている三次元グラフの用語が使われています。立体テクニカルイラストレーションというのを身に付けさせるためには、この43ページの上にあるような投影図を使うと、いわゆるデッサンというものが非常に身近に感じられるようになります。絵心がない、下手な人でもこれを使うと非常に描きやすいということ。工業高校の先生などはこの辺を使っています。

さらに最後の方で、先ほど説明のあった「スマートシティ」の話。

それから、最後のところに、264ページ、「総合的な問題解決をしよう」というページの266、267ページでみんなのアイデアをものにするヒントを与えているような考え方、ここが非常に興味・関心を高める上でも良いなと思いました。

以上のようなところから、中学生向けという意味では「東京書籍」がお薦めかなと思っています。

以上です。

教 育 長 ありがとうございます。

それでは、私の方から「技術」についてお話しさせていただきます。

基本的に、まず、小学校から中学校に入って加わる新しい教科といったところでは、巻頭のアプローチの部分で、「東京書籍」と「開隆堂」は丁寧な扱いをしています。両社とも、イラストや漫画を活用して、生徒の関心を引いていますし、「開隆堂」は0単元としてガイダンスを持ってきています。「教育図書」については、本冊とは別に、別冊をつけて設計計画表をつけているところも面白いかなと思っています。

私も2社です。

「開隆堂」については、学習が知識や技能を身に付ける、問題から課題を考えるものをつくることで課題を解決する、学習したことを社会に生かすという流れになっていて、問題解決型の学習ができています。

それから、「開隆堂」は218ページから251ページで、プログラミング的思考を育む内容となっています。ただ、コーディングの実習が巻末資料にしかないということが、どうなのかなと思っています。教科書全体には、絵や図、写真が多くあり、大変親しみやすく、読みやすいなと思っています。

そして、「東京書籍」は、これは本当に工夫を凝らしているのが、各編の初め、例えば18ページ、「技術の最適化」のページがあり、これから学ぶ内容について興味・関心を高めているという構成になっています。

各編の終わり、83ページに、「未来のTechnology」ということで、学習のまとめのところでは、学習してきた内容の発展分野と振り返りを、記述しながら学習するスタイルというところでは読み解く力等の育成につながっていくだろうと思っています。48ページからの木工製作の作業手順の構成が非常にダイナミックな部分と、一つ一つの作業が整理されていて、大変分かりやすくなっていると思っています

それから、「東京書籍」もプログラミングについては、218ページから、この後、251ページで、双方向性のある「クラス伝言版システム」、230ページを開けていただきたいのですけれども、このようなものを使って、子どもたちが、より具体的で、かつ使い勝手が良いようなものを活用して課題を解決する内容となっています。それから、巻末に取扱い、先ほど長沼委員がおっしゃっていたように、「今すぐできるプログラミング手帳」があって、扱いやすいかなと思っています。276～279ページにかけては、コンピューターの基本操作において、コンピューターの始動から終了までの流れ等、いわゆる基礎基本事項がきちんと記載されています。

実は、私も、松澤委員のおっしゃっていた「エネルギー」の単元のあたりは、内容が非常に濃いなと思っています。例えば189ページで面白いと思ったのは、「校内特許を取ろう」ということで、特許というもののあり方とともに、自分たちもそこに参加できるということで、技術の時間数は多くないにしても、こういうことを作り上げることが好きな子どもたちにとってみると、自分の学校の中で使える何かを作り出すというところのありようが面白いなと思いますし、「社会の発展とエネルギー変換の技術」の内容は非常に濃いなと思っています。

私も、194ページ、「スマートシティ」のところに目が行きました。ここには、Society 5.0とか、SDGs、あるいはテクノロジーといった言葉がうまくリンクされていますので、ここは非常に注目に値するところかなと思っています。

それから全体的に他教科とか、小学校での学習のつながりが、マークや記号で分かりやすくなっていて、今まで学んだこととのリンクがしやすいということ。

これはどの教科書にもありますが、ページの下のところ、技術の工夫としてさらに詳しい説明文があり、本文に記載されていることの発展的な内容となって

いて、非常に興味を引くようなところもありました。

以上の理由から、私も、「東京書籍」の教科書の構成、内容ともに秀でていているという判断をさせていただきました。

それでは、「技術・家庭の技術の分野」については、皆さんのご意見も「東京書籍」というところでございますので、「東京書籍」を仮採択することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「技術・家庭の技術分野」については、「東京書籍」を仮採択することといたします。

次に、「技術・家庭の家庭分野」の審議に入ります。

指導室長から説明をお願いいたします。

指 導 室 長 ありがとうございます。

「技術・家庭の家庭分野」につきましては、3社ございます。

「東京書籍」、「教育図書」、「開隆堂出版」からの採択をお願いいたします。

教 育 長 それでは、審議に入ります。

高野委員、よろしいでしょうか。お願いいたします。

高 野 委 員 家庭科も、技術同様、3社とも、写真、イラストが多く、分かりやすく、丁寧で、安全に対する配慮も行き届いていました。

私は、3社の中で「東京書籍」を選びました。

理由は、まず、これも技術と同じなのですが、ガイダンスが充実しているという点です。6ページで、「自立と共生を目指そう」となっているのですが、ここでは乳幼児期から高齢期までの人生を眺め、そして、今の自分ができることを右の下に記入する欄があります。10ページでは、「中学校家庭分野の学習内容を見てみよう」ということで、小学校での学びを振り返り、中学校ではどういうことを学習していくのか、関連を説明しています。12ページでは、「自分の生活をチェックしよう」ということで、中一の初めから中三の終わりまで、中一の初め、2年の初め、3年の初め、3年の終わり、4回チェックするようになっています。3年間で自分は生活の中でどんなことができるようになったのか、この表を見て確かめることができます。

また、ここには3年後にどんな自分になっていたかということをおそらく、1年生のときに記入するのかなと思いますが、3年間の成長を眺めることができます。同じく14ページでは、今度は「自分と家族との生活を見つめよう」ということで、一日の生活を眺めて、家族と支え合って成り立っているということに気づいて、活動として、右のページに家庭の中にはどんな仕事があって、誰がそれを担っているのかに気づいて書く欄があります。3年間の成長と、それから家族

との関わりという点を重視していることが分かります。

最後の巻末の278ページになると、「家庭分野の学習を終えて」ということで、今度は中学校卒業後に向けた内容として、自立と共生の視点で振り返って、「未来の自分へ」ということでメッセージを書くことになるということ、卒業した後も、これで終わりということではなくて、さらにそれから先の自分に対して、どうありたいかということを考えさせるページになっています。

また、調理実習などの実習例では、3社ともそれぞれ非常に丁寧で、写真も多く、手順が分かりやすくなっていました。

調理については、各社、実習例も多く、なかなかどれが良いとは言い切れないのですが、例えば72ページの豚肉の生姜焼きの実習、これは3社とも出ていたのですが、比べてみたときに、写真が横の流れになって記載されています。調理によって、例えば肉が焼け始めたときに回りの色が変わってきて、焦げ目がついたらひっくり返していくということや、材料の様子の変化が写真で取り上げられているので、子どもにとっても分かりやすいと思いました。

ここで、そのときに一緒に組み合わせる献立例として、ポテトサラダとキャベツと油揚げのみそ汁というのが提案されているのですが、「開隆堂」も同じように、一緒につけ合わせる調理例なども載っていたのですが、「東京書籍」は同時に、73ページ下のように「調理の手順例」があって、生姜焼き、ポテトサラダ、キャベツと油揚げのみそ汁という3つが横に時間軸として示されている。だから、最初に何を準備して、この時点でその準備が終わったら、次の工程、生徒が3つ同時に調理できるようになっており、大変分かりやすいなと思いました。

調理の工程で、ポイントが各社とも細かく示されているのですが、「東京書籍」では、例えば71ページ肉料理の、豚肉の筋切りはどこのところに筋切りをすれば良いのかというのが書いてあるのですが、これはほかの教科書にはない細かいところでした。

ハンバーグの成型をするときには、手にうすく油を塗っておくとよいとか、魚の下ごしらえでは、他社にもアジをおろしたり、イワシを照り焼きしたりとあるのですが、「東京書籍」は、79ページにあるように、下ごしらえのときに、まず、最初にまな板の上に新聞紙や牛乳パックを敷くとよいなどが説明されており、これはほかの出版社には記載がなく、こういう細かいところがなかなか良いなと思いました。

174ページから、「災害への対策」ということで、災害の知識をつけるとともに、176ページでは、被災地で中高生がどんなことをしたかということ、実践したことが記載されています。福島県や宮城県で、中学生が実際に地域の中で行ったお手伝いや、関わってきたことが具体的に書かれていて、それを読んだ後に自分たちで安全計画を立てようとなっています。

次の177ページでは、避難所や仮設住宅での暮らしについて考えるページとなっています。巻末に、「防災・減災手帳」という、切り取ってつくるようになっているのですが、食生活、衣生活、住生活への備えや、情報の入手の仕方などが細かく書かれていて、取り外して実際に使えるのかなと思いました。

今、板橋区でも、地域の中で中学生が防災キャンプ、防災訓練で重要な役割を担ってくれている例がいくつかありますが、こういうところでしっかり学んで、これからも家庭や地域で防災について主体的に活動できるようになってくれたら良いなと思いました。

以上の点で、私は「東京書籍」の教科書が良いのではないかと思います。

教 育 長 ありがとうございます。
それでは、松澤委員、お願いいたします。

松 澤 委 員 私は、高野委員と同じで、「東京書籍」が良いなと思っております。
板橋区は、現在、中学校は「東京書籍」を使っておりまして、小学校が「開隆堂」になっております。

先ほど、「家庭科」でもお話ししたのですが、専科と、それ以外の教科では考え方が違って、先ほどの「技術」のことは、「仕事につながる技術」を重視して学んでいく面が広い分野なのかなと思うのですが、今回の「家庭」については、逆に、身近なところ、細かいところを注意しているかどうかということを私は見てみました。

そして、私が「東京書籍」で一番気になったのは、278ページからの「自立していく私たち」の、「ともに生きる私たち」というこの相関図であったり、色々な人とつながっていて、その中で自分というものが何をするか、まずはこの「家庭科」を通じて自分が自立していくというような流れになるのか、そして、みんなの前で発表したり、小さなところから始まり、そして、それが色々な人を助ける、社会に生かすにつながっていて、その社会に生かしている人たちのコメントが載っているというところです。このようなことを伝えながら、一つ一つの課題を見ていくという点では、「未来の自分」、そして「25歳の私へ」というところなども、とても良いなと思いました。

全ての原点でもある衣食住について、生活について、もう一度、自分たちも見直していかなければいけないなと思いますので、その点は非常に良いのかなと思いました。

内容の方は、「開隆堂」と「東京書籍」を見ていったのですが、「東京書籍」、90、91ページで、「日本の食文化と和食の調理」というところがあって、「開隆堂」は、140ページ、若干、捉え方が違って、「地域の食文化」について触れていたりするのですが、私が違いを感じたのは、地域でつくっている食材に注目していて、その食材を中心に郷土料理が載っているという点、どういう形でそういうものができてきたのか、また、その地域でどういうものが食べられてきたのかなどは、ほかの教科にも関わるものではないかなと思います。

他に、「食品」についてですが、「開隆堂」は84ページ、「東京書籍」は33ページで、「開隆堂」は2、3ページに渡っている点なども、「東京書籍」は、この1群、2群については1つのページで表現されているのですが、1回で見ることができ非常に良いのかなと感じましたし、「開隆堂」94ページ、「東京書

籍」40ページに、こちらも視点が若干違うのですけれど、バランスよい献立づくりと、栄養バランスを目で見て判断するというところの違いがあり、どちらも例え方は良いと思うのですが、色々なバリエーションが見られるというところでは、「東京書籍」の方が良いのかなと思いました。

例えば、家の冷蔵庫にある食材で、子どもたちが作る時に、色々な食材を使って料理ができるということなどのイメージもできるのかなと思ったので、そのような違いが若干あったかと思えます。

どの出版社も、皆さんおっしゃっているように、色々な分野の最低限のものは用意されていて、素晴らしくできているのですが、あとはどのようなところを子どもたちに伝えたいか、どのようなところを見ていきたいか、過去と現在と未来をどう見ているか、その出版社のイメージが教科書にあらわれているのかなと感じました。

今年の採択で思ったのですが、前回まで使われている教科書も、実際に昨日見てきたのですが、今回の教科書は、前回の教科書に比べて、もう格段によくできていますので、そこまでの差はないのですが、細かな差を見ながら、今回は「東京書籍」を推薦したいなと思いました。

以上です。

教 育 長 ありがとうございました。
 それでは、長沼委員、お願いいたします。

長 沼 委 員 「家庭分野」につきましては、学習指導要領の目標で、「よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し、創造する資質・能力を育成するための視点」、とあり、生活の実現、それから生活を工夫し、と「生活」が2回もでてきます。生徒たちが現在の生活を通して、今後の未来の生活にしっかりと目を向けられるかどうかということが非常に大事ではないかと考えて読んでみました。

「技術分野」と同じつくりになっていますので、同じように「東京書籍」を推したいと思えます。

まず、構成はどの単元もほとんどが見開き2ページで完結するようになっていて、一部、例外がありますが、それで非常に先生も指導しやすいということと、構成は「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」「やってみよう」という形で進行していくことが、「板橋区授業スタンダード」に非常によく適合できるということと、これはどの社も同じなのですが、主体的・対話的で深い学びができるように配慮されていることがありました。

もうほとんど前のお2人と委員と同じなので、重なる部分もごさいますが、巻末に「災害への対策」ということで、先ほどの技術ではプログラミングでしたが、今度は「防災・減災手帳」という形で、切り取ることができ、活用できるようになっています。本当に、昨今、この日本では災害が大変多く起きていて、子どもたちにも、生徒たちにもしっかりとそういう認識を持ってもらいたいということがありますので、ここはあえて切り取る形の巻末を入れて、読みやすくしている

という工夫は良いなと思いました。

それから、先ほどの高野委員と同じなのですが、「調理」の場合は、例えばハンバーグで見比べてみたら、「東京書籍」が見やすく、分かりやすいですね。

横に展開して行って、まさに見開きということを手を使ってレイアウトしていく。それから、左上に、まず食材です。ここにぼんとリストを掲げて、何を留意しなければいけないのか、先生も把握できるし、子どもたちもすぐ分かるという、横展開で調理していくという流れが非常に見やすく、分かりやすいので、この点が「東京書籍」は良かったなと思いました。

それから、技術と同じなのですが、小学校と関連するところには小学校のマークがありました。当然、小中一貫教育を板橋区は行っていますので、家庭科は5年生からになっていますが、5、6、7、8、9年生という形でしっかりと家庭科を学んでいく上で、小学校で学んだことも復習しながら理解を深めることができます。こういう点も良いかなと思いました。

「技術」と同じように、背表紙に名前を書く欄があり、同じようにパラパラ漫画もありまして、今度は最後に何が出てくるかという、「これからの生活を豊かに」という内容が本の形式になっていて、最後、本を全部見終わって表紙を開くと、「これからの生活を豊かに」ということで、まさに先ほど申し上げた学習指導要領の「生活」というものを意識するところに根差したつくりがなされているのだなというのがこの部分からも分かります。

また、イラストの見やすさもございまして、写真もそうなのですが、随所にあるイラストが、かわいらしい絵柄で、生徒たちの興味を引きそうな描き方をしています。もちろんほかの出版社もこのような形であったのですが、例えば、115ページであれば、「浴衣を着てみよう」というところなのですが、このイラストがかわいらしくて、見やすい。そして説明も、女性の場合、男性の場合、それぞれの何がポイントなのかということがしっかりと書かれています。

本文も字体が見やすいのですが、この資料編の字体も丸文字がかっているのか、見やすく、読みやすいと思います。生徒の目から見ても見やすいと思いますので、こういうイラストの部分、それから本文ではありませんが、イラスト、資料編の部分の字体も含めて、見やすく分かりやすいというのも「東京書籍」だと思います。

以上の点から、「東京書籍」を推したいと思います。

以上です。

教 育 長 ありがとうございました。

それでは、青木委員、お願いいたします。

青 木 委 員 私も3人の委員さんと基本的には同じなのですが、この家庭の場合は、板橋区の地域性に合ったものという点を意識して、3社見させていただきました。それぞれ特徴がある中で、「教育図書」は、「災害に備えた安全な住まいの考

え方」というところも情報などは充実しているなど感じ、最後の281ページにある「生活の課題と実践」の説明などはよく書かれているなどという印象です。

巻末の「暮らしの中のマーク・ラベル」なども見やすく、分かりやすく説明がされていると思いました。

次に「開隆堂」で注目をしたところは、個人的になるのですが、188ページからの制作実習のところ、幾つもの非常に面白い生活を豊かにするものの制作を、すぐ実践できるような仕方でわかりやすく書かれています。また、最後、268ページにある「生活の課題と実践の進め方」なども分かりやすいフローで説明しているところも非常に面白く、分かりやすく書かれているなどと思いました。

私も最終的に「東京書籍」なのですが、目次を見たときに、パッと目立ったのが、最後のところに、「私たちの成長と家庭・地域」という単元を「ともに生きる」というところに設けてまとめられている。それぞれ3社とも、これについての記述はございますが、紙面を大きく設けて、このように210ページから264ページまでという形で埋められているものというのは「東京書籍」でした。

中身を見ても、昨今のコロナで、自宅や地域で過ごすことが多くなっている中で、これからも家族と地域ということで、家族との関わりが、特に板橋では地域の高齢者との関わり等々が重要になってくると思います。

そして、次の260ページにある「地域での協働を目指して」のところは、この地域に住みながら、このコロナの中でそれぞれ実践できるようなことに非常にマッチした説明になっているなど感じました。さらにやりたい、やってみようと思ったときに、262ページの、学校の中でロールプレイングができるような内容、それから方法論、その後に出ている「生活の課題と実践」の中でどのようなアプローチをしていくかというようなところが分かりやすく、268から270ページ等で、こんなような方法で課題を解決していきましょうというところを、分かりやすく、興味を持てるような説明をされているというところで注目しまして、板橋区の子どもたちには、「東京書籍」がマッチしているのかなと感じました。

以上です。

教 育 長 ありがとうございます。

「家庭科」については、本当に小学校から中学校のつながりの中では、「開隆堂」が表紙の裏に「学生と家庭分野」という文脈があるのですが、これもなかなか素敵な文章だなと思いました。ガイダンス部分は3社ともイラストや漫画を活用して、生徒の関心を引き、発達段階を意識した構成になっていると思います。

「東京書籍」は、12から15ページの記述させる部分の工夫も見られますし、「教育図書」は6、7ページに実習の安全性について取り上げています。さらに「開隆堂」は7ページでSDGsの関わりを示しています。今、青木委員がおっしゃったが、単元配列の違いもあるのですね。「教育図書」と「開隆堂」は学習

指導要領のA、B、Cの順に並べてあるのですが、「東京書籍」は、食生活、衣食住を別々に編立してしていますし、「私たちの消費生活と環境」「私たちの成長」と、つまり他の2つの会社は最終目的を一番最後に、「私たちの成長と家族・地域」という形にもっていき、最初に「食生活」を入れているというのは、小学校の接続を少し意識した並び、さらに「私たちの」という枕詞がとても自分の生活とのつながりも意識されているのかなと思っています。

もう1つ、「東京書籍」と「開隆堂」は、各編の終末に、SDGsを意識した「持続可能な」という接頭語をつけて学習を展開する、持続可能な消費生活をめざしてという内容が入っていて、SDGsの考えや各学習とつながりを深める工夫となっています。

その中でも、「東京書籍」では、「プロに聞く」というコラムがあり、生徒にとって身近な内容と捉えることが要因となって自分も実践しようという気持ちを高めることにもつながるかなと思っています。

「開隆堂」は、SDGsとの関わりを挙げており、さらに「参考」というコラムがあり、さらなる課題意識の醸成に役立つ構成になっているかなと思います。

具体的には、「持続可能な食生活をめざして」というところで、「東京書籍」は96～99ページの4ページ、「開隆堂」は152から153ページの2ページなのですが、この部分は「東京書籍」の方が質・量ともに優れていて、特に99ページの資料においては、生活に生かす内容が具体的に挙げられて、生徒が話し合ったり、提案したりしやすい構成となっているかなと思っています。

それから、「持続可能な消費生活をめざして」というところでは、「東京書籍」は202ページから6ページを使っています。「開隆堂」も256ページから262ページの6ページ、ここはとても両方とも非常に読み応えがありました。

「東京書籍」は、「省エネルギーと消費生活」という分け方で、SDGsと絡めながら具体的な生活空間と対比させ記述しているため、学びと日ごろの生活をリンクさせて、協働的な学びにつなげ、本当にその日からでも実践できる流れとなっているかなと思います。「開隆堂」は、「話し合ってみよう」や「発表しよう」「考えてみよう」といったようなコラムと連動させると深い学びになるかなと思っています。

「東京書籍」の271ページ、「選択」の生活の「課題の実践」のところですが、当たり前かもしれないのですが、改めてこの家庭科を見ていると非常に公民とのつながりというのを意識させていただきました。それから、もう1つは、271ページの、「思考ツール」という、これは板橋としては全部の教科について、考えるためには、「考えなさい」と言うだけではなくて、「ツールを使った思考を深めていく」というところが取り上げられています。

また、274ページから、生徒のレポート例が4つ続いています。

このレポートの書き方というのは、意外にできそうでできないので、モデル的なものがあるというのは取り組みやすいかなと思っています。

さらに、282ページから、これ「技術」にもあったのですけれども、学んだことを社会に生かしていく。この16人の人材とのつながりで、キャリア教育に

も生かしていくのかなと思いました。

以上のようなことも含めて、「東京書籍」の流れとしては、「話してみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」「やってみよう」を学習の初めにできる活動として挙げて、生徒への興味・関心を高めています。

「技術」とも一緒に、各編の初めに、「小学校家庭科での学習」、「この編で学ぶこと」、「家族・家庭の基本的な機能の例」、「生活の営みに係る見方・考え方」など、例が示されていて、学習のオリエンテーションに役立ちますし、右側のページの写真、184、185あたりを見ていただくと、非常にダイナミックな部分と、何となくこういうことを勉強するのかということを見通しながら内容に入っていけるというようなオリエンテーションがきちんとしているかなと思っています。

そして、これも「技術」と一緒ですが、ページの角に生活メモとして詳しい説明文があって、本文に記載されていることの発展的な内容になっていると思っています。

面白いと思ったのは、142～153ページのところに、メジャーのようなものがついていて、これを使って、一番下に、何か、長さを調節したりするのかなと思うところがあり、至れり尽くせりという感じがいたしました。

私も、3社を比べたときに、「東京書籍」を推したいと思っています。

では、今回のところでは、皆様のご意見が、「東京書籍」というところがございますので、「技術・家庭（家庭分野）」についても「東京書籍」を仮採択することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「技術・家庭（家庭分野）」については、「東京書籍」を仮採択することといたします。

では、次に、「英語」の審議に入ります。指導室長から説明をお願いいたします。

指 導 室 長 ありがとうございました。

「英語」につきましては、6社ございます。

「東京書籍」「開隆堂出版」、「三省堂」、「教育出版」、「光村図書出版」、「新興出版社啓林館」から採択をお願いいたします。

教 育 長 よろしいでしょうか。大丈夫でしょうか。

それでは、審議に入ります。

高野委員、お願いいたします。

高 野 委 員 英語は、教科書を見ただけでは、どのように授業が進んでいくのかという、各出版社の違いが分かりにくかったのですが、私は、この「Unit」とか、

「PROGRAM」の目標や活動が分かりやすく、見通しをもって学習に取り組めるものが良いのではないかなと思ひ、「東京書籍」、「開隆堂出版」の2社を選びました。

まず、「東京書籍」2ページの、「学習の見通しを立てよう」という、いわゆる目次があるのですが、これがほかの出版社の場合は、タイトルと、「Key Sentence」が載っているところもあるのですが、それを見ただけでは内容が分かりにくいところが多い中で、「東京書籍」の場合は、タイトル、「活動の目標」「GOAL」、それから、「Key Sentence」で学んだことが、「Grammar for Communication」でまとめられており、毎時間どんなことを学習していくのかが分かるようになっておりますし、1年間、また3年間学習が終わったときに、この教科書のここを開いてみると、復習したいときにどこに戻れば良いのかがすぐ分かるようになっている点がとても良いなと思ひました。

この教科書のサイズが大きくて、写真やイラストなど、レイアウトも大きく、見やすくなっています。

各Unitのところでは、見開き2ページの構成となっているので、学習内容が一目で分かり、見通しを持って学習に取り組めるようになっており、工夫されている点も良いと思ひます。

Unitの扉のページに書いてあるGOALが、Unit最後のページの下に「CHECK」という欄があって、目標の達成度を確認できるようになっています。例えば2年の16ページには、この「Unit 1」のチェック欄があります。この「Unit 1」の初めのページのところに「GOAL」が書いてあり、それをここで確認するように流れがなっております。

Unitの中で、簡単な「Mini Activity」というところがあり、また、Unitが終わったときに、「Unit Activity」があり、最後に、「Stage Activity」というように、各単元が終わったところで、段階的なCheckを繰り返して、最後の「Stage Activity」では、複数の技能を使って、Unitの学習が定着しているかとか、確かめられるようになっています。

例えば1年生の120ページでは思い出に残った学校行事を扱っていて、ずっと積み上げていったことで、みんなで発表できるようになっています。2年では、118ページのところで、自分の町の中でのお薦めの場所を、グループで紹介マップを作ったりして、最後、それをみんなの前で説明できる。3年生48ページでは、「私のこれまでの活動の報告」や、102ページでは「ディベート」を扱ったページもあります。

そして、Activityを細かいことからだんだんに重ねていって、最終的にはこういうプレゼンもできるようになっていく工夫が大変良いと思ひます。

さらに、英語を使う目的に合わせて各技能の力をつける「Let's 何々」のページがあります。例えば「Let's Write」「Let's Listen」「Let's Read」「Let's Talk」があるのですが、そ

れぞれが例えば「Let's Write」の書くところでは、1年生では、一番最初にグリーティングカードや、絵葉書、お礼状を書いたりする。3年生の81ページでは「グラフや表の活用」をしてレポートを書くとなっています。

今度、「Let's Listen」では、2年生では機内放送や、天気予報を聞いたり、また、3年生ではテレビ、国際ニュースも聞けるようになっていきます。

「Let's Read」、読むというところでは、1年生、98ページに、図や表など情報を参考に、書き手の考えを読み取る。富士山に登ろうというところなのですが、会話文でそんなに文章自体は難しくはないのですが、表や、富士山までの地図があって、この英文で、この地図とか表の内容を読み取りながら進んでいく内容となっています。

1年生から3年生では、物語を読んで、場面、心情を読み取る。それから、説明文を読み取る。例えば2年生では、時計に関する説明文から歴史を読み取って説明したり、また、3年生では、エネルギーに関する説明文を読んで、概要を理解して、考えや意見を述べるというようなページになっています。

だんだん文章自体も長いものが読めるようになっていて、これが読み解く力を英語の中でも育成するのに大変役に立っているのではないかと思います。

「Let's Talk」は、道案内、レストランでの注文、電車の乗り方、買い物など、日常生活に役立つことをペアになって練習したり、また場面で演技をしたりというようなページになります。

全体の中で、「Unit 0」というところがあるのですが、前の学年の内容を扱った単元となっております。1年生では、小学校で学んだ文法や、単語の音と文字を確かめる内容になっています。

1年生のところでは、「Unit 0」だけではなくて、「Unit 5」までの会話文で「Enjoy Communication」として、小学校の内容が15回設定されていて、小学校からの接続が大変行いやすくなっている。子どもたちにも違和感なく小学校の英語から中学校の英語に入っていってもらえるようなつくりになっています。

「開隆堂」は、各「PROGRAM」の初めのページに5つの「GOAL」が示されています。授業の流れは、「Scenes」「Think」「Retell」「Interact」、この4段階で進められていて、ページの下にそれぞれ目標到達のCheck欄があります。

ページの横に縦のバーがあって、そこに「Scenes」や「Think」など、今、何を学習しているのかが分かるようになっています。

それぞれ見開き構成となっているので、学習内容が分かりやすく、見通しを持って学習に取り組めるという点も良いと思います。

「開隆堂」で良いのは、各PROGRAMでの学びを生かす「Our Project」が設定されていて、学年が進むにつれて、身近な場面から社会的な場面へと題材が発展して、色々な力をつけられるようになっています。

例えば、1年の47ページでは、「あなたの知らない私」ということで、ス

ピーチをするのですが、ここで自分のスピーチの原稿をつくる前にマッピングで考えていくとなっています。2年生では、今度、2年の39ページでは「夢の旅行を企画しよう」ということで、地図、表やマッピングなどを使って色々考えたり、調べたことを整理し、最終的にはグループで決めた夢の旅行についてスピーチをすることができるようになります。3年生では、「記者会見を開こう」、「あなたのまちを世界にPRしよう」というようなところで、分かりやすいスピーチや質問をしたり、答えたり、また、「あなたの地元を世界にPRしよう」というところでは、地元のことをPRする台本を考えて、ディスカッションをしながら意見を交換できるようになっています。

この「Our Project」に関連して、そこに至るまでに「Step」というところがあって、ディベートや説得力のある主張ができるように、例えば1年生では、46ページで「マッピングの考えを整理し、表現しよう」とか、2年では、110ページに「説得力のある主張をしよう」。また、3年では、「メモの取り方」、「ディスカッションの仕方」などを取り上げているページがあって、この「Our Project」をやる前にこういうところで様々な力をつけていく流れとなっています。

以上の点で、私は「東京書籍」、それから「開隆堂出版」が良いと思いました。

教 育 長 ありがとうございます。
 それでは、松澤委員、お願いいたします。

松 澤 委 員 私は、前回の小学校の採択のときも非常に迷ってしまい、本当に全ての出版社、どれを使っても良いのではないかと思うぐらい、選ぶのがとても難しかったように思っています。

ただ、個人的に私が感じた点や、評価委員会の報告書などを通じて、あと、今現在使っている中学校の教科書、そして、東京都や国で一番使われている教科書なども考慮した上で、3社に絞らせていただきました。

今、高野委員がおっしゃった、「東京書籍」と、「三省堂」と、「光村図書出版」の3つを中心に読ませていただきました。

別に表紙と中身の挿絵なども比べてみたのですが、アニメーションを使っているのが「光村図書出版」と「開隆堂」で、キャラクターなども使っています。写真を使っているのが「新興出版社啓林館」で、外国の漫画を使っていたりするのが「教育出版」、「三省堂」、「東京書籍」で、「東京書籍」と「三省堂」は写真やアニメーションを中に使っておりますので、バランス的には良かったと思いました。

大きさは、「東京書籍」は大きいのですが、これは、皆さんに聞いてみたいなのと思うのですが、私は、個人的には大きくない方が使いやすいように思いました。その辺を考慮しまして、まず、「東京書籍」は見やすさ重視ということで、今、高野委員がおっしゃったように、この教科書を使ってどのように授業を進めるかということ、色々なことができ、とても見やすいので、この教科書を使って進

めるというのは良いと思います。

中学2年生の、114ページというところに、「世界遺産への旅」がありまして、これは後で次の「道徳」のところの授業でも取り上げたいと思っているところなのですが、それが「英語」で使われていたという点は、非常に面白いなと思いました。

「三省堂」については、「Lesson」というのが、3年間、統一しているという評価で、非常に専門家としては進めやすいという報告を受けておりまして、自分も見たところ、本当に見やすく、コンパクトで使いやすいという印象がありました。

中学3年生の130ページから付録がついておりまして、小学校の採択の際も付録について話したのですけれど、後々使えるので非常に便利かなと思いました、各出版社で、色んな特徴がありました。今、高野委員がおっしゃったように、「開隆堂」はすごく分かりやすく、簡単に授業ができるのかなと思ったので、私は、小学校の採択で「開隆堂」を薦めました。

「新興出版社啓林館」も、とても見やすく、特にレイアウトや、色の使い方がすごくよかったと思っています。

「教育出版」は、「社会」でもそうなのですが、世界というものをすごく感じさせてくれる教科書になっておりまして、非常に良かったなと思いました。

「東京書籍」、「光村図書出版」、「三省堂」の3社を見たときに、色々、読んでみたのですが、最後のページに大体学習の振り返りというのがあるのですけれど、学習の振り返りは大切ななと思いました。私個人としては「光村図書出版」の、「Let's Be Friends!」というところがありまして、世界につながっているのですね。これは何かというと、途中に出てくるのですが、「光村図書出版」の1年生の中に、デジタルコンテンツが468個ついていて、これは断トツなのです。もう何倍も違っていて、カフェのシミュレーションなど、様々あり、例えば、57ページで「世界の中学生」というのがあって、世界の中学生がデジタルコンテンツを通じて、自分たちのメッセージを述べたり、自分たちの好きなものや、自分たちの趣味などを語っているところがあります。そういうことが1年生、2年生、3年生、全部ありまして、最後にその世界がどこかということが書いてあります。

先ほど、高野委員もおっしゃったように、学校行事のことを「東京書籍」が1年生で扱っており、「光村図書出版」は3年生で扱っていました。「GOAL」というのがあり、目標達成GOALの使い方というのがすごく良かったなと思っています。これは、聞く、話す、書く、読む、のどれを中心にこの授業で扱っているのかということを行っているものだと思います。

また、別の教科でもあるように、途中で紙質が違うページが多く、このような工夫が面白いなと思いました。

こういうことを含めて、私が感じたのは、英語は今回、小学校、中学校が大きく変わっておりますし、今後、デジタルコンテンツも入ってくることを含めて、小学校もそうですが、英語を嫌いにならないようにしたいという先生の声もあり

まして、この3社の中で、自分自身が一番「光村図書出版」の教科書を読んで楽しかったのですね。

こういう教科書ですと、何か、色んな親しみが持てたり、「英語」だけの観点ではなく、「英語」はあまり興味がないけれど世界に興味がある人とか、例えばおしゃれなカフェで頼んでみたいとか、何か、夢が膨らんだりする、そのようなことを、非常に感じました。

今回、何が言いたいかという、これからの人材に必要なスキルというものが英語でどうなのかなと思って考えたときに、これは子どもたちに動機付けさせるスキル、要するに子どもたちが英語を勉強したいとか、勉強しようと思わせるスキル、これは絶対、教科書だけではなくて、先生方も授業でも必要なのかなと思いました。

この全ての本は「英語」を学ぶための本ではあるのですが、英語を学ぼうと思わせる本かどうかということが大事かなと思ったときに、私は「光村図書出版」の本を読んで、英語を学ばせるための本というより、学ぼうと思わせる本だったように思ったので、教育のモチベーションにつながるのかなと感じ、私は「東京書籍」と「三省堂」と「光村図書出版」で、私個人としては、先ほどのデジタルの部分を含めて、「光村図書出版」がすごく良かったように思いました。

以上です。

教 育 長 ありがとうございます。

それでは、長沼委員、お願いいたします。

長 沼 委 員 まず、学習指導要領の目標を確認しました。「外国語による、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や案内などを理解したり、表現したり、伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する」と書かれております。

4技能ということですが、さらに話すことは、やりとりと発表に分かれて、5つの領域になったということですので、まず、この力をしっかりとつけることができるというのがポイントになるという視点で全社を読みました。

偶然ですけれど、私も松澤委員と同じ3社ですが、理由がかなり違います。

昨年、小学校の教科書を採択したときに、今回の中学校の採択にはない「学校図書」の教科書を採択しました。その一番の理由は、小学校にとっては初めてであるということで、ベテランの先生でも、とにかく初めて使うということを考えたときには、ほとんどの授業で同じパターンで授業ができるということを重視し、しかもその4技能を、今、何の技能をつけるためにこれをやっているのかというのが明確になっているものということ、それが一番大きな理由で「学校図書」を選びました。

その同じつくりになっているのが、「光村図書出版」と「三省堂」です。

これについては、例えば「光村図書出版」を見ていただければお分かりのとおり、見開き2ページで進んでいくのですが、常に一番最初は「L i s t e n & R

ead」、右側が「Listen」と「Speak」と「Write」。

しかも、この緑色のマークで分かりやすく書いてあるので、初めての若い先生が見ても、この部分は聞く力をつけるのかな、読む力をつけるのかな、書く力のかなというのが明確ですし、裏返せば、生徒たちが自学自習するときもやりやすいということにもなります。

このパターンが小学校との接続性を考えたら、一番使いやすいのは「光村図書出版」。同じパターンが「三省堂」で、こちらについても、同じように、若干、表記は違うのですが、同じような4技能ですね、5つの領域となっていますが、「Read」とか「Write」とかというのが常に冒頭に書いてあるという点では、この2社が非常にそのような観点から見て使いやすいと思います。

さらに、「光村図書出版」に関しては、ほぼこの見開きの右上のページにQRコードがありますから、毎回、使うことができます。一番量が多かったですね。

先生方の研究会が数えたところ、「光村図書出版」のQRコード、1年生、191、2年生、142、3年生が35と圧倒的に多いことで、恐らくこれを聞きながら、松澤委員がおっしゃるように興味を引きながら授業ができますし、そしてまた、生徒たちがQRコードを読んで自学自習ができるという点では優れていると思いました。

以上の点で2社を推すのですが、しかし、それにこだわらずにやるとなると、総合力では「東京書籍」ですね。A4判ということもあって、情報量も多いですし、学びやすい、よく工夫されている教科書だなということで読みました。

「板橋区授業スタンダード」である、狙いを確実に押さえた上で、各自で考え、そして対話ですね、対話形式、「英語」ですから、当然コミュニケーションですから、会話をして、そしてまとめていくというスタイル。「板橋区授業スタンダード」にも適合している構成になっていますので、良いなと思いました。

それから、各学年の最初に「Unit 0」があって、必ず復習ができるような形になっている点ですね。こういう点も非常に分かりやすい点かなと思いました。小学校で学習した内容については小学校のマークが入っているということで、小学校が教科化されましたので、そことの接続をきっちり図ることができます。板橋区では、小中一貫性をやっていますから、7年生、8年生、9年生と進んできて、新たに、今度、小学校5年生、6年生で教科化されたものから接続して学んでいくと考えると、「東京書籍」の方が分かりやすいということがあります。

そして、最後、巻末には「Can-Doリスト」があって、ここに先ほど述べた4機能、5つの領域ですね、これの表があり、しっかりと学べたかどうかということが一目瞭然でチェックできるようになっている。

このような工夫は、もちろん他の出版社にもあり、「東京書籍」だけではありませんでしたが、これが、どういうスキルが身に付いたかがチェックしやすいということがあります。

それと、それから学年が進むと、英語というのは国語の力にも関わってくるものですから、中3になってくると、そのようなものもしっかり意識して、読解力をつけるための長文の理解と、そしてそれが高校の学習にもまたつながっていく

ということもかなり意識をして、レベルの高いところまで持ち上げていくということが課題になっていますので、そのような点を考えると、総合的には「東京書籍」を推すということになるので、ほかの委員の先生方のご意見を伺って、シンプルでいくのであれば、先ほど言った「光村図書出版」か「三省堂」で、シンプルさを特に考えずに、総合的にしっかりとした力をつけるのであれば「東京書籍」という、3社を推したいと思います。

以上です。

教 育 長 ありがとうございます。
 それでは、青木委員、お願いいたします。

青 木 委 員 私も、「英語」は色々迷いました。それぞれ特徴があって各社良いところもあります。その中で、小学校から「英語」が入ったところでは、小学校からの英語のつながりは何かあるのかということ、恐らく小学校は興味・関心ということと、会話というか、英語に親しみやすいものを見つけさせるというのが重要だと思っています。

そうすると、小学校から学んだ子が入ってくる中学校では、板橋区は「読み解く力の育成」が重要だという視点から、見させていただきました。

それぞれ挙げられているテーマ性、これに注目した中で、個人的に面白かった見方、それから最近の、英語の先生だったと思うのですが、社説の中で、「日本は英語が遅れている、日常会話に重きを置き過ぎた」と言っている方がいたのですね。昔は、長文などを読解する中で、英語の文法を学んでいた。長文を読んで、前後の脈絡を理解する、まさに「読み解く力」、この部分が実は世界の国から遅れているというような指摘を社説の中でしていました。昔に帰れというわけではないのですが、長文読解というのが、ある時期から非常に大事になると改めて思い直しました。

そういう点から見て、テーマ性に注目した中で、「開隆堂出版」、「三省堂」、「東京書籍」、この3社を見ました。

テーマ的に、もう挙げると切りがなくなってしまうのですが、面白かったなというのは、私の職場の非常に学生に人気のある英語の教員の話です。その先生がどのような授業をやっているかということ、単に英語を教えるだけではなくて、他の教科とのつながりを授業の中で意識させることを非常に意識的に行っており、色々な先生と専門性の高いコミュニケーションをとり、それを授業の中に取り入れるということを常に意識しているというお話がありました。

そのような意味で、テーマの中で、他教科とのつながりを意識できるようなものが良いなど、個人的には思いました。

例えば、「三省堂」でいうと、3年生の、126ページ辺りから長文読解が出てくるのですが、自然から学ぶ、「Learning from Nature」ですとか、それから付録5, 6, 7, 8に入るのですが、これは世界の国々で起こっている様々な世界事情など、この辺は単に長文読解ではなくて、歴史や公民

といったような科目にも、ある意味つながるようなテーマがあり、この辺を意識しているところが面白いところですね。

「開隆堂」は、最初の「Starter」というところで、音楽や映画をテーマにして鑑賞しているというのも、興味・関心を高め、かつそれに対する議論、英語のディベートというのが必要なときにこういうテーマ設定が必要なのだなと感じました。

1年、2年は会話が中心になるのですが、2年の44ページ、国語の授業で親しんだ「ごんぎつね」のテーマを英語で扱っていたりするというのは、面白い取組だなと個人的には思ったりしました。

これはほかの会社でも出ているのですが、杉原千畝さんのお話ですとか、あとは3年生になると、AIが出てきたりします。面白いなと思ったのは、3年生の90ページに、「非常時のアナウンスを聞こう」というところがあって、これは英語のコミュニケーションの中でも災害対応というような意味では、これは非常に重要な英語の文章かなと思った次第です。

テーマ設定では、3年生の100ページ、マララ・ユスフザイさんのお話が出てきたり、最後の巻末では、「アクションカード」というものもついており、これは興味・関心を高めるという意味では、ありなのかなと感じました。

最後、これは長沼委員とも非常に共通するところがあるのですが、先ほどの小学校からのつながりというところと、それから先ほどまで話していた色々な科目とのつながりというところで、総合的に考えると、「東京書籍」は、例えば2年生の36ページの下にコラムがあって、テーマ自体は、「My future Job」ということで、AIなどもテーマになっているのですが、この辺は単に英語の授業でなくて、「技術」を意識したようなことも取り上げています。また、新幹線の技術史についても英語のテーマとして挙げているというところも非常に興味深く感じる次第です。また、76から78ページ、「Read and Think」で、文章を理解した上で考えさせる、考えや意見を述べさせるというプロセスが非常に重要だと思うので、この辺が大事だと思いました。

そして、巻末の「CAN-DOリスト」、これは使いやすいと私も感じています。

3年生になると、同じような長文読解が多くなるのですが、最後の方に、先ほども申しました、3年生の105ページにある「Word Room」の3番「ディベート」ですね。これは非常に重要ですし、生徒たちが英語を本当に積極的に使おうと思ったときに、ディベート、ケーススタディというか、そういう場面をつくるということは、彼らが積極的に話す上では非常に重要な場面設定だと思っています。そこで使う表現などをここで挙げておくということは、その活性化という意味では非常に大事な動機付けになるのかなと思いました。

最後に、これも全く個人的に良かったと思うのが、152ページ、数字の読み方などですね。最後、サイエンスコミュニケーションという話になってくると、例えば数字の読み方などは大学生になっても、化学薬品の名前がちゃんと発音できなかったり、数字が読めなかったりという子どもたちがいるので、付録で良い

のですが、参考としてつけていただけると良いなと感じるので、総合的に色々な資料が網羅されている「東京書籍」を推薦したいと感じています。

以上になります。

教 育 長 ありがとうございます。

私は、内容的なもの、まして題材等については、本当にどの教科書会社も遜色ないと感じますが、構成上と、今回、「英語」で、「話す」と「聞く」というところが非常に強くなった、そう言われていながら、今、青木委員の言ったように、「読む」というのが非常に重要だというところで、私は、教科書の構成で2社、例を挙げたいと思います。

1つは、「三省堂」です。「三省堂」は、小中一貫教育の視点から、第7学年、中学1年生は、「Lesson1」の前に「Starter」という、小学校の外国語を振り返る内容があって、アルファベットや休日の過ごし方など、コミュニケーションを中心とした、活動内容になっています。

そして、「Lesson」の扉ページの下には、必ず「Get POINT」「USE Read」「Project」などの学習や、活動の目標になる視点が示されていて、生徒が見通しを持って、ここは板橋の子どもたちの学びにおいては、見通しを持つというところを重視していくという意味では非常に意義深いところだと思います。それから、ふりかえりの視点にもつながっていくのかなと思っています。

あと、即興のやりとりが練習できる「TAKE ACTION!」、テーマに沿ってやりとりをしたり、ロールプレイシートを使って会話を進めたりというところでは、聞く、読む、それから話すといったところの充実につながっていく。

さらに会話中の表現と言語の働きを学ぶ「GET PLUS」の次のページには、学習語彙を確認することができる「WORD BANK」のページが設定され、役立つ気がしました。

それから、全学年の巻末にある「What Can I Do?」、これも4技能5領域の観点別リストを活用して、自分ができるようになったことをすぐに確認することができるという意味では、板橋の授業スタンダード、あるいはこれまでの全教科の学び方に沿っている。

しかしながら、「Lesson」全体の目標が明瞭ではなくて、各「Lesson」の最後に目標を振り返る項目がないというのが残念なところかなと思っています。

そして、もう1つは、皆様、それぞれ出されている「東京書籍」です。

「東京書籍」は、教科書が非常によくできていると思っています。各学年、「Unit0」、これも各委員から出ましたが、全学年の内容を復習する単元がきちんと位置づけられていて、小中一貫教育の視点から、7年生、中学1年生では、小学校で学んだ文法や単語の音を確認する内容となっています。

スムーズな移行が期待できますし、また、「Unit1」から「5」までを接続期に充てています。小学校との接続を「Unit1」だけではなくて、「5」

までつなげていて、扉のページの「l i s t e n i n g」で概要を把握する活動を行って、小学校マークが記載されている「E n j o y C o m m u n i c a t i o n」で小学校の表現を使用する活動を行って、さらに「S t o r y」を聞く、そして「K e y S e n t e n c e」で目的、場面、状況に合う表現として文法を整理するという構成で統一されているという工夫がされています。

各U n i tの扉のページには、学習の「G O A L」がきちんと設定されていて、各U n i tの最後のページには「C h e c k」という目標達成度を確認する項目があり、これはもうまさに「板橋区授業スタンダード」に適合しているなど思っています。

各U n i tのパートは見開き2ページの構成となっていて、学習内容が一目で分かり、見通しを持って学習に取り組める工夫もされています。

これも各委員から出されている「C A N - D O リスト」に基づく全体構成の中でU n i tの学習を積み上げた先に「S t a g e A c t i v i t y」というところで、段階的に学習内容の確認を行うことができる。スピーキングテストやパフォーマンス評価に役立つことが可能なかなと思っています。

「S t a g e A c t i v i t y」では重点領域活動をマークによって示して、巻末の「C A N - D O リスト」を紹介する流れとなっていて、獲得した知識を、活動を通して確実にアウトプットすることが可能となるかなと思っています。

「東京書籍」はスピーキングテスト、これは本来のテスト対策、都立学校から始まっていくわけですが、7年の「U n i t 6」以降に設けた、先ほど委員からも「P r e v i e w」のところでは、文法を形として覚えるのではなくて、文法を使う目的や場面、状況を理解する。これは巻頭のところを工夫しています。全学年に入っていますが、この「P r e v i e w」では、この目的や場面や、状況への気づきが映像と音声で流されているのも、話す、「S p e a k i n g」というところに対しては非常によくできているかなと思っています。

「L e t ' s t a l k」の「S t e p 1」については、道案内では、機内放送など実生活で使える題材を、同じように目的、場面、状況に合った表現を即興的に考える場面が設定されているかなと思っています。「S t e p 3」では、設定を変えてアレンジする活動として、状況に合ったやりとりの仕方や意識を身につける、対応を身につけることができる、つまり非常に行動と内容が伴った形になっているかなと思っています。

そして、単語のところでは、今回、英語は非常に単語が増えます。そういう中で、7年生から、80、60、61というコンテンツも充実しているのですが、教科書の端の「N e w W o r d s」では、C E F R - JのA1レベル、いわゆる英検3級程度、あるいは中学校の教科書などで取り上げられている語彙から1,000語を前提にして、特に大切なものは太字で表記されていて、語彙、単語の理解を深めていくような形になっているかなと思っています。

松澤委員がおっしゃっていた英語の教科書のサイズについて、これはかなり本当に大きいなという雰囲気はあるのですが、教科書の構成、あるいはこれからのスピーキングテスト、あるいは語彙、言葉の多さというところも考えたときに、

私は「東京書籍」を推していきたいと思っています。

以上です。

今、内容を、それぞれ意見が出ました、「東京書籍」については全員の委員からの推薦がございました。

このような考えが出ているところですが、何か、さらにご意見があれば、おっしゃっていただければと思いますが、いかがでしょうか。

では、松澤委員、どうぞ。

松澤委員 私のご意見といたしましては、先ほど出たところで、「東京書籍」と「三省堂」について非常に良いところもたくさんあります。どのように決めていくかという点で、今おっしゃったような総合的にものを考え、また、小学校との連携を含めて考えますと、自分としても、「東京書籍」の方が、皆さんのご意見を聞いて良いのではないかなと感じておりますので、皆さんのご意見をいただきながら、「東京書籍」でよろしいということであれば、そちらで良いのかなと考えております。

教育長 ありがとうございます。
そのほか、いかがでしょうか。
長沼委員、どうぞ。

長沼委員 私も、先ほど「東京書籍」以外に2社挙げましたが、その理由は、あくまでも小学校で昨年採択をしたケースと比較してのことで、その理由は、全く初めてであるということが大きくありましたので、それでシンプルなつくりと申し上げましたが、今回、中学校の英語については既にもう教科化も長年されていて、既にベテランの先生が教えてこられたという経験がありますから、特にそれにはこだわらず、総合的な内容を見て「東京書籍」にするというのは全く問題ないと思います。
以上です。

教育長 ありがとうございます。
それでは、英語につきましては、「東京書籍」を仮採択することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教育長 それでは、「英語」については、「東京書籍」を仮採択することといたします。
では、次に、「道徳」の審議に入ります。
指導室長から説明お願いいたします。

指導室長 ありがとうございます。

道徳につきましては、7社ございます。

「東京書籍」、「教育出版」、「光村図書出版」、「日本文教出版」、「学研教育みらい」、「廣済堂あかつき」、「日本教科書」からの採択をお願いいたします。

教育長 よろしいでしょうか。

(はい)

教育長 それでは、審議に入ります。

高野委員、よろしく願いいたします。

高野委員 学校を訪問した際に、「道徳」の授業をよく拝見するのですが、最近は大分、少なくなったのですが、授業に入ったときに、課題文をずっと読んでいって、なかなか本題に入っていくことができないという場面も多く見かけました。

ですから、私は、まずこの教材の内容が生徒たちにとって親しみやすく、身近な問題として考えるもので、長さ的にはあまり長過ぎないもの、また、若い先生が増えている中で、経験の浅い先生でも教えやすいもの、そして何よりも自分で考えて、友達と交流をしながら考えていくことができるもの、という視点で、「日本文教出版」、「教育出版」の2社がふさわしいのではないかと思います。

まず、「日本文教出版」なのですが、現在、板橋区では、小学校、中学校ともにこの教科書を使っているのですけれど、先生方からも肯定的なご意見を多く伺っています。

別冊ノートについても、多くの学校で使用しているというようなご報告をいただいております。

この「日本文教出版」の教科書は、タイトルのところに主題名と、それから下に主に登場人物の写真とか、挿絵があります。物語を読んでいくときに、生徒や読む人たちは、本文の中で、主人公たちの人物の心情の動きなどを、注目することができて分かりやすいのではないかなと思いました。

その本文を読んだ後に、後ろに「考えてみよう」とあり、みんなで考え、議論して考えることができる。そして、「自分に+1」で、これからの自分にどう生かしていくかということを考えるというところがあります。

取り上げられている題材の内容は、部活や運動会、職場体験など、生徒が身近に感じる学校生活の題材などが多く、現代的な課題の情報コラムとか、SDGsなどについても丁寧に取り上げています。

また、「Unit」という形で題材の取りまとめをしています。複数の教材とコラムを連続して指導する「Unit」があります。これが2つ、「いじめと向き合う」、それから「よりよい社会と私たち」。この2つのUnitがあるのですが、各学年、二、三回ずつ取り上げられていて、丁寧に取り組めるようになって

ています。いじめUnitは、1年生の28ページのところに「いじめと向き合う」ということで、左のページに「魚の涙」から始まったこういう項目を取り上げていきます、ということが書かれています。

同様に、2年生でも28ページ、3年生でもこのようなUnitの始まりのページがあるのですが、1年生では、いじめが起きる背景や、自分や相手の心の動きについて考えています。2年では、そこから一步進んで、人との関係や社会の問題についても考えています。3年では、人間の弱さ、醜さを乗り越える気高さや正しさについて、3年間でこのようなUnitの構成を通していじめを学びながら、みんなで議論して考えています。

ここに「プラットフォーム」というコラムがあるのですが、1年生では、35ページに「いじめの構造」が書いてあります。「いじめって何」とあり、ここのいじめられている生徒を中心に、いじめている生徒、面白がって見ている生徒、そして見て見ぬふりをする人、いじめをとめようとしなない生徒というように、このいじめは、いじめられている人といじめている人、直接に2人だけではなくて、その周りのみんな、いじめに関係しているのだといういじめの構造的なものを書いています。

また、2年生になると、44ページ「人権課題への取組」となっています。その前に、国籍だとか、色々なことによる差別について、人権についての課題を考えています。

3年生になると、34ページで、私たちはなぜ人を攻撃するのかという、攻撃という立場で考えていって、いじめをしないためにはどんなことができるのかということも考えています。

もう1つのUnitの「よりよい社会と私たち」のUnitについては、同じように、1年では56ページがこのUnitの始まりのページなのですが、社会への参画、それから将来の生き方という2つの面で考えていきます。

1年では、「身近な社会に目を向けて」、2年では、50ページ、「働くことや社会との関わりについて」、3年では、「将来の生き方と社会のあり方について」というように、議論をしながら考えていきたいと思います。身近なところから、今度、だんだん目を広げて、最後は自分の将来のあり方と社会のあり方について考えることになっています。

それぞれ「プラットフォーム」という、先ほどのコラムのところ、1年では、70ページに、「安全に過ごすために」ということで、自転車の乗り方や、防犯について。2年では、「働くこと」テーマになっているので、「直撃仕事インタビュー」ということで、20ページでは、実際に色々な仕事をしている方たちに直撃し、今、感じている仕事のやりがい、中学生のときにはどんなことを行ったかなどを聞いています。158ページに、「つながりを減災に生かす」ということで、先ほど家庭科の中でも話にでた、自助・共助など、熊本地震で活躍した中学生の話などに触れています。3年生の174ページでは、「よりよい社会について考えてみよう」のところ、
「こんなときどうする？」として、「ワクチンの配分」について書いています。今、コロナ禍で、ワクチンの開発が進められて

いて、今後、それができたときにどう配分していくのか、優先順位などを考える興味深い内容になっています。

また、学習の進め方というところに様々な体験を通して考えるページがあります。1年では、「愛情貯金をはじめませんか」というところで、挨拶を体験したり、また、役割演技、2年では、「自分って何だろう」というところで、お互いのよいところを書き合う体験、184ページでは、包むということで、実際にふるしきで包む、日本文化を体験するというページもあります。3年生の138ページには、臓器ドナーのところで、話し合いを通して、生命の尊厳について考えるというような、体験を通じた学習が設定されています。

この「日本文教出版」の大きな特徴の別冊ノートですけれど、以前に比べて、内容がまたさらに修正されて使いやすいものになりました。自分の考えや、友達の意見、また、話し合いの様子がメモできるようになっています。

各学期の振り返りシートがあるのですが、各学期の下に保護者記入欄というのがあって、家庭との通信にも使えるということです。

区民アンケートを拝見した中で、現在、小学校で「日本文教出版」を使っている保護者の方からなのではないでしょうか、この別冊ノートについて、子どもがどんなことを考えたのか、何を学んだのかが分かるのでとてもよい、家庭でもこのノートを使って話がしやすいというようなご意見もいただいております。

以上の点で、「日本文教出版」。

もう1社。「教育出版」です。

「教育出版」は、文字が読みやすく、本文の長さが適当で、内容も合唱コンクールや部活など学校生活や、あと3年の76ページでは将棋の藤井聡太さん、それから1年の64ページではイチロー選手など、生徒が身近に感じたり、興味を持つ内容が多く取り上げられています。

こちらもUnit、「いじめや差別のない社会」「生命の尊さ」の2つのUnitが設定されています。

例えば1年の40ページの「いじめに立ち向かう」という冒頭に詩があって、それから、ずっと読み進めていって、「いじり？それともいじめ？」というような内容。次に、「「ごめんね」って言えたのに」という漫画。その後「いじめに立ち向かうコミュニケーションの仕方」というような形で、子どもたちにいきなりいじめについて深く考えるというところではなくて、いじめを身近なものとして考えていく、ふだん何げない生活の中からコミュニケーションの仕方を見直すようなきっかけになっています。

あと、2年生では、90ページがこのいじめUnitになっているのですが、2年生の回は、「私のせいじゃない」という本の、抜粋の部分がずっとあって、今度、戦争の写真という進め方、3年生では、32ページから始まって48ページ、「人権について考えるって、どういうことだろう」というページがあります。

この、それまでにずっと読んできた文章のまとめとして、このページがあるのですが、人権問題って何だろうという、見た目や、髪型や、体型は、みんなそれぞれ1人ずつ違うじゃないというところ、それから、外国の方の人権問題、性的

少数者の人権問題など、そんなのが分かりやすい形で取り上げられています。

本文のところは、各教材のタイトルの下に導入の問が示されています。

どのようなことを考えていくか、見通しを持たせています。そして本文の最後は、「学びの道しるべ」として、教材を考えるための発問は3問設定されています。これは指導する先生がクラスの実態に合わせて選べるようになっているので、良いのではないかと思います。

そのほか、体験的な学習も、ペアになって困っているお年寄りに声をかけるや、乗り物で席を譲る、マナーやエチケットについてグループで演じるなどの体験的な学習もできるようになっています。

ほかにも防災情報など、大変面白い読み物がたくさんついています。

3年の56ページなどでは、「ハゲワシと少女」という、大変インパクトのある写真を見て、そこから子どもたちが何を考えるのかという、取り上げ方が面白いものがあります。

以上の点で「教育出版」が良いと思いました。

私は、2社、「日本文教出版」、それから「教育出版」、この2社が良いのではないかと思います。

教 育 長 ありがとうございます。

では、松澤委員、お願いいたします。

松 澤 委 員 私の方は、色々な評価委員会の報告書、調査委員会の報告書と、今まで使っているものであったり、表紙と中身のデザインであったりということを考慮しまして、「日本文教出版」と「廣濟堂あかつき」の2社を比較して、読み比べてみました。こちらの2社は、どちらとも別冊がついていて、使いやすいのかなとは思っております。

2カ所だけ説明させていただければと思うのですが、まず、1年生の中で、最初に見るところというのは、1ページ目を開いたときに「出会う」というところと、「自分を見つめる」というところなのですね。

「廣濟堂あかつき」は、「自分を見つめる」、「日本文教出版」は「出会う」という表現になっており、「日本文教出版」で、中二は「見つめる」、中三が「開く」で「廣濟堂あかつき」は、「自分を考える」「自分を伸ばそう」と、表現が違うのですが、全体の本を通して同じなのですが、若干、「日本文教出版」の方が、抽象度が高く、濁したような表現を使っています。

あと、ページの配分も若干違うのですが、1年生の、まず、「廣濟堂あかつき」の18ページと、「日本文教出版」の188ページなのですが、「いつわりのバイオリン」という同じ題材が載っております、文章の長さも若干違うのですが、「日本文教出版」188～191と文章が短く構成されていまして、発問が2つあり、「廣濟堂あかつき」は、18から23ページと、文章が多く、発問も4問あるのですね。

最初は、私は、「廣濟堂あかつき」を見たときに、こちらの方が発問、文章も

多くて、丁寧だなと思ったのですが、読んでいくにつれ文章が少ない方が良いかなと思いました。

その後、このような発問の仕方によっても、子どもたちに考えさせるのはどちらかなと思ったときに、よくよく読んでみると、「日本文教出版」の方がより考えさせられるなど私としては思いました。

本の前半と本の後半、最後の方に意味したものは何なのかなと思ったときに、後の方に、この題材のものは、社会に出たときの非常に難しい、社長と社員の関係や、弟子と師匠の関係、親子の関係だったり、そのようなものをすごく表現しているの、非常に大切なものなので最後に持ってきたのかなとは感じました。

もう1点気がついたことは、2年生になるのですが、2年生の「日本文教出版」は86ページからで、「廣濟堂あかつき」は13ページから、同じ題材でまた似ているものがありまして、先ほど「英語」のところ、「東京書籍」が採択になったのですが、そこにも載っていた「樹齢七千年の杉」という屋久杉の話なのですが、「光村図書出版」も「命の木」という題材で取り上げております。何が違うかという、と、「日本文教出版」の方が見開き2ページで、印象から入っていきまして、中の文章も丁寧で、あらすじも書いてあります。

同じ写真が中ほどに2つ載っているのですが、その神秘的な写真の撮り方も違いきまして、私は「日本文教出版」が意図的にこのような写真を載せているのかと思ったので、このようなところも含めて、とても細かいところなのですが、大きなところは大きく考え、そして命の大切さ、生き方について、こちらの題材では重きを置いていきまして、発問の対比も非常に良かったという点がありました。

「廣濟堂あかつき」もすごく良いのですが、私としては国語的な質問だったように思えて、「道徳」では、高野委員がおっしゃっていましたが、コラム、プラットフォームなども、非常に充実しておりますし、今現在使っておりますので、「日本文教出版」が良いのかなと感じました。「廣濟堂あかつき」で、安藤百福さんの「ミスター・ヌードル」というところがあったのですが、そこはすごく良かったと思います。

様々な視点から色々な項目を捉えていますので、どこの出版社が良いかというのは、非常に迷うところではありますが、私は、以上の点を考慮しまして、「日本文教出版」を推したいと思いました。

以上です。

教 育 長 ありがとうございました。

では、長沼委員、お願いいたします。

長 沼 委 員 学習指導要領の目標は、「道徳的な判断力、信条、実践意欲と態度を育てる」ということが目標の後半に書かれています。

この中で特徴的なのは、「信条」という言葉でして、道徳的信条といいますが、道徳教育は、いわゆる価値に関わることで、価値の押しつけではありませんが、価値に触れて考えるきっかけにするということです。

しかもアクティブラーニングですから、みんなで話し合っ、その上で自分はどうするのかという、後半にある意欲と態度につなげていく、道徳的实践力ということを考えて、そのような技能として活用できることが教科書を選ぶ視点になります。

私は、都内で、様々な学校で道徳の公開講座というのでしょうか、授業を公開して、ゲストティーチャーを招いて話を聞くという保護者向けのイベントなどに、私も講師に呼ばれていくことが多いので、様々な授業も拝見しますと、高野委員も先ほどおっしゃっていましたが、国語の授業とどう違うのかとってしまうような授業が結構あります。

先生方の力量を上げていかなければいけないので、そういう意味では、それとも絡めて、良い教科書、使いやすい教科書を選ばなければいけないですね。

道徳が教科化されましたが、道徳の教員免許を持っている人は誰もいなくて、全員教えなければならないというわけですから、若い先生でも、ある程度、使いこなせる教科書ということで選ぶ必要があります。

それから、既に学習指導要領は、道徳だけは先行実施で早目に改定されていますから、既に使ってきている教科書ですので、現時点ではそれとあまり変わらない方が良いでしょうと思います。そういう意味では、今使っている「日本文教出版」というのが第一候補にはなるかと思えます。

私が一番着目したのは、道徳の授業というのは先生の発問が命ですね。

当然のことながら、この発問が既に教科書にも書き込まれていて、そのとおりやれば良いよとなっているのですが、それが明確になっているのが、この「日本文教出版」と「東京書籍」ですね。

何が明確かという、この読み物教材の中の登場人物の心情を考えるという発問は必ず必要で、それが明確に書かれている。それ以外の発問については、今度は読み物教材を飛び出してこないといけないのですね。

そうしないと、国語の読解と何が違うのかという話になってしまうので、飛び出してきて、では自分はどうするという、道徳的实践力に今度は子どもたち、生徒たちの視点を引き込んでいかなければいけません。そのときに、この「日本文教出版」は、「自分に+1」という部分を明確に発問していますし、「東京書籍」は「自分を見つめよう」ということでずっと書いている。

この、要するに1つと1つですね。この2つの発問、1つずつというのが明確に書かれているのはこの2つの教科書です。

他社の教科書を見ると、2つ、3つだったりするのですが、50分の授業では3つぐらいの発問は可能なのですけれども、その場合には、あえて教科書に書き込んでいなくても、先生方はプラス自分のクラスの生徒の状況に合わせてもう1つは決めますので、あえて教科書に書いていない方が私は良いと思うのです。

これは色々な考え方があるので、つまりオリジナルを先生方が決められるということですから、あえてワンプラスワンだけ記述したというのがこの2社なので、これを推したいと思えます。

「日本文教出版」の他に良いところは、全ての教材の読み物の一番最初に登場

人物がイラストで描かれているのです。これはほかにどこにもありません。

必ず道徳の授業でやるのは、登場人物は誰ですかという質問から入る授業が多いですね。それがもう発問しなくても、読む段階で既に生徒たちが、この話には誰が出てくるのが明確に分かるというのは大変親切だなと思いました。もちろんそれで読み解かなければという話になると、これは必要ないのかもしれませんが、これ工夫だと思いますね、だから、良いなと思いました。

それから、別冊ですね。別冊ノートが、これも特に板橋区では、今、これを採用してきていますが、何か、先生方から苦情があるということもなく、先生方のヒアリングでも、非常にこれを効果的に使っているという声が多く、区民アンケートでも、先ほど紹介があったように、肯定的な評価がありますから、うまくこれを使って書き込んで授業をしているのが、今、板橋区の小学校の現状ですので、それも踏まえて考えても、この「日本文教出版」の優位性があると私は考えております。

漫画の教材ですとか、詩の教材とか、いわゆる普通の2問だけではなくて、工夫されて、生かされて、挿入されていますので、そういう点も良いなと思いました。

「東京書籍」は、先ほど述べたように、発問がとても良いのですが、さらに良いのは、目次の段階で、いわゆる道徳で扱う4つの内容というのがあるのですが、主として自分自身に関すること」「主として人との関わりに関すること」「主として集団や社会との関わりに関すること」「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、この4つの内容が、目次の段階でこのマークが入っています。

他社の教科書は、割と各それぞれの教材のところにはマークが書かれているのですが、「東京書籍」は、目次で4つの何を勉強するのかが分かるので、先生が見てこれは分かりやすいですね。この辺の優位性はあると思います。4つの中のどれをやるのかというのは、まず先生方はぱっと捉えて授業をしなければいけませんので、その点で考えると、この見やすさというのはありました。

目次の見やすさ以外に、「アクション」というところで、ロールプレイができるようになっていくところが各学年に出てきていますね。ロールプレイができるようになっていくのですね。自分に照らして、自分が演じることによって理解するというのも大事な手法ですので、それを取り入れてきているのも良いなと思いました。

ということで、私は、1番目に「日本文教出版」で、2番目に「東京書籍」というのを推したいと思います。

以上です。

教 育 長 ありがとうございます。

青木委員、お願いいたします。

青 木 委 員 色々迷ったのですが、注目したのは、皆さんから出ている「日本文教出版」

と「教育出版」と「東京書籍」の3社でした。

実は、中で決めかねていたのですが、皆さんの、今の意見、特に長沼委員の意見等をお聞きして、絵や別冊をうまく使いこなしているという状況もありますから、「日本文教出版」がよいのではないかとこの形で推させていただきます。

以上です。

教 育 長 ありがとうございます。

私の方からは、1つ、「小中一貫教育」という視点で、現在、小学校、中学校ともに同じ教科書会社、教科書のつくりをそろえるという状況の中で、道德については、小学校が2年目、中学校が1年目ということもあります。1つの教科書を3年程度、特に中学校は3年間で卒業というところも含めて、活用していくというところでは、現在活用している教科書でも良いかと思っています。

現在、板橋では「日本文教出版」を使っているわけですが、先ほど来出ているノート、別冊についても、色々、賛否両論あるものの、小学校は52校中51校が使用して、1校が学校独自のワークシート、中学校22校は全校が活用しているという状況です。

子どもたちが中学校でも道德の時間にノートを使って授業に臨むという連続性を意識できるということ、それから、ノートについては、これまでどちらかというと教科書側の意図というルールを敷くような記述があったのですが、今回、大幅に改善されていて、授業者、あるいは子どもたちという形が増えてきているというところでは評価をしたいなと思っています。

そういう意味で、私は「日本文教出版」、これを来年度以降の中学校では使っても良いのではないかと思っています。

「日本文教出版」の良さとして、まず、UDフォントで読みやすく、さらに中学校で学習する漢字全てに送り仮名を振っています。これは、学力的な問題もあるのですが、読めないことをつまずくという状況が報告されています。

それから、1年生を開けていただきたいのですが、非常に工夫されているなど感じたのは、例えば1年間の最初の目次の2ページ、実は、いじめの認知件数が多いのは1年生です。そのような現状の中で、Unitの「いじめと向き合う」というのを年間3カ所置いています。

また、夏休み前に、12番「花火に込めた平和への願い」ということで、この辺は2年生になってからの広島や長崎平和の旅と関連があるかなと思っています。

次のページを開けていただくと、「道徳科での学び」の、考え、議論するということ、実は私も長沼委員と同じなのですが、この单元、「日本文教出版」は「考えてみよう」というのが1つ、それから「自分に+1」というのが1つついています。

考え議論する道徳の授業において、題材の内容についてたくさん発問するのは、ナンセンスではないかなというところでは、このぐらい絞り込んであるというところはよくできているなど、今、と思っています。

それから、1時間の学習の流れも、「気づく」「考え議論する・深める」「見

つめる・生かす」の3ステップで1時間の学習の流れを可視化しているところ、このようなことも良いのかなと思っております。

いじめのところに注目すると、28ページからなのですが、これをずっと見てみると、私すごく良いなと思ったのが、「魚の涙」というところから入って、その後、また「いじめって何」というような内容が入って、傍観者的なものも含めて、いじめの正体をつかむという手、そして「近くにいた友」というところの後なのですが、ここに今度は40ページのロールプレイ、これは本当に丁寧だなと思うのですが、こんな流し方があるという、ロールプレイを使った流し方の紹介が入ってきます。

これは教師向けなのか、子ども向けなのかと思ったのですが、そして、その42ページにさらに、いわゆる「アンガーマネジメント」といったところで、イライラ、怒りの感情の鎮め方など、「保健体育」のようなのですがしっかりと入っていて、そして相田みつをさんのこの「トマトとメロン」というのも、本当に、読んでいてうーんと思いますし、さらに48ページに、また相田さんの「いのち」が入っており、非常に良い構成になっているなと思いました。

そして、108、109ページは、SDGsに関しても、この教科書は非常にいろいろなところに、各学年で出しています。そのオリエンテーションとしての内容がここに網羅されていて、そこに関連する題材も含まれています。

154ページの先ほどのいじめの部分で、158ページからは、いわゆる「問題解決型議論」をして深めていくという授業のパターン、これはまさに「道徳」の授業のあり方を教師も子どもも共有していく。つまり、授業ってこういうものだと子どもも分かるということが大事だということでは非常に良い構成になっているのではないかと考えております。

そのようなところから、私は、これまでの継続性を大事にするということと、教科書の構成で、「日本文教出版」を推させていただきたいと思っております。

それでは、「道徳」につきましては、「日本文教出版」というお声が多いということで、「日本文教出版」を仮採択することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、道徳については、日本文教出版を仮採択することといたします。

以上で全ての教科、種目についての審議が終了いたしました。

全ての教科、種目について、次のとおり、仮採択いたしました。

読み上げさせていただきます。「国語」、三省堂、「書写」、三省堂、「社会（地理的分野）」、教育出版、「社会（歴史的分野）」、教育出版、「社会（公民的分野）」、日本文教出版、「地図」、帝国書院、「数学」、東京書籍、「理科」、東京書籍、「音楽（一般）」、教育出版、「音楽（器楽合奏）」、教育出版、「美術」、日本文教出版、「保健体育」、大修館書店、「技術・家庭（技術分野）」、東京書籍、「技術・家庭（家庭分野）」、東京書籍、「英語」、東京

書籍、「道徳」日本文教出版。

それでは、令和3年度公立中学校使用教科用図書の給与について、指導室長から説明願います。

指導室長 ありがとうございます。

令和3年度公立中学校使用教科用図書につきましては、原則として、今回採択した発行社から発行される新版の教科用図書を給与することになっておりますが、国及び東京都から留意事項が示されておりますので、ご説明いたします。

まず、「書写」、「地理」、「歴史」、「地図」、「保健体育」、「技術・家庭」、「第3学年の美術」、「第3学年の音楽（一般）」、「音楽（器楽合奏）」につきましては、継続使用することになっているため、前年度までに給与したものをそのまま使用いたします。

次に、学習指導要領において、指導内容が一体となっている教科で、教科用図書が学年別に発行されている「英語」、「道徳」につきましては、全学年について、今回、採択した発行社の新版教科用図書を使用することが原則となります。

今回、「英語」、「道徳」は発行社の変更がございませんでしたので、全学年、同じ発行社の新しい教科用図書を使用いたします。

説明は以上でございます。

教育長 それでは、またお諮りいたします。仮採択といたしました各教科用図書について、本採択とすることでご異議ございませんか。

(異議なし)

教育長 それでは、そのように決定いたします。

次に、採択事項(3)令和3年度特別支援学級使用教科用図書の採択について、指導室長から説明願います。

指導室長 特別支援学級で使用する教科用図書につきましては、資料1「令和2年度使用特別支援教育教科書調査研究資料」、資料2「令和3～4年度使用特別支援教育教科書調査研究資料」、資料3「令和3年度文部科学省著作教科書一覧」に掲載されている文部科学省著作教科書、そして、参考資料のフォルダー内に入っております参考1「令和2年度教科用図書調査委員会調査研究報告書」、参考2「令和2年度特別支援学級使用教科用図書学校調査研究報告書」となります。

説明は以上でございます。

教育長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

よろしいでしょうか。

(はい)

教 育 長 それでは、お諮りいたします。採択事項（２）令和３年度特別支援学級使用教科用図書については、「令和２年度使用特別支援教育教科書調査研究資料」、「令和３～４年度使用特別支援教育教科書調査研究資料」、「令和２年度教科用図書調査委員会調査研究報告書」、「令和２年度特別支援学級使用教科用図書学校調査研究報告書」に掲載されている教科用図書と文部科学省著作教科書を採択することでご異議ございませんか。

（異議なし）

教 育 長 では、そのように決定いたします。
以上で、日程第十二 議案第３７号についての審議を終了いたします。

○議事

日程第一～ 請願第１号～ 板橋区の中学校教科書採択に関する請願（継続）
日程第十一 請願第１１号

（指導室）

教 育 長 続きまして、日程第一～日程第十一 請願第１号～請願第１１号「板橋区の中学校教科書採択に関する請願」について審議いたします。

請願第１号～請願第１１号につきましては、７月１６日に開催された教育委員会で審議し、教科書選定作業を適正かつ公正に進めるため、継続審議といたしましたが、先ほど教科書採択の審議が終了いたしましたので、本日、審議いたします。

それでは、指導室長から一括して説明願います。

指 導 室 長 請願第１号～第１１号「板橋区の中学校教科書採択に関する請願」について説明いたします。

内容につきましては、７月１６日の教育委員会で説明したとおりです。

請願項目等はそれぞれ記載のとおりですので、説明は省略させていただき、教科書採択の取扱いについてご説明いたします。

請願項目の１点目ですが、現場の職員及び区民の意見の尊重と開示、審議についてです。

現場教職員の意見として、学校ごとに学校調査研究報告書を作成し、報告案件として、教科用図書審議会答申の中で教育委員会に報告しております。

また、令和２年６月２日～６月２５日までの期間に、区内２カ所において教科書展示会を実施し、区民の方にアンケートを記入していただきました。

その内容は、区民意見として、教科用図書審議会答申の中で教育委員会に報告しております。

これらのことから、採択に当たっては、現場教職員や区民の意見を参考にした協議がなされたと考えております。

また、採択後、教科用図書審議会の会議録を公開し、教職員や区民の意見を開示いたします。

2点目の採択の方法と説明責任についてですが、教科書の採択に当たりましては、これまでどおり、合議制の執行機関として委員による議論を行い、様々な意見や立場を踏まえた意思決定を行いました。

また、教科書を採択する際も、教育委員会は公開し、議事録も公開することから、説明責任についても十分果たしていると考えております。

3点目の配慮事項ですが、教科書は中学校において主たる教材として使用義務が課されている図書であり、生徒の教育を行う上で極めて重要な役割を果たすものです。

採択権者の責任と権限において教科書採択を行うことは、教育委員会のなすべき仕事のうちで最も大切なことの1つであり、板橋区教育ビジョン2025に基づく教育の板橋の実現を図るために、教育や教科書の本質を踏まえた議論となったと考えております。

また、教科用図書の採択は、文部科学省の検定審査に合格した図書の中から行われます。検定審査では、自己実現をめざす自立した人間、公共の精神を尊び、国家、社会の形成に主体的に参画する国民及び我が国の伝統文化を基盤として、国際社会における日本人の育成をめざす教育基本法や学校教育法、学習指導要領に示す目標などに照らして、適切であるかどうかを審査されています。

また、引用する資料につきましては、信頼性がある適切なものが選ばれており、その扱いは公正であること。さらに、主体的・対話的で深い学びの実現に資する指導ができるよう、適切な配慮がなされていること、これらのことから十分な配慮がなされたと考えております。

説明は以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

高 野 委 員 ただいま指導室長から説明がありましたとおり、教科書選定作業を適正かつ公平に審議してまいりましたので、今回の請願につきましては、教育委員会としては採択、不採択の判断は行わずに、教科書採択の結果及び教科書選定作業の概要を請願者に通知することをもって審議終了という取扱いでよろしいのではないかと思います。

教 育 長 ほかに、質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
よろしいでしょうか。

(はい)

教 育 長 それでは、お諮りいたします。日程第一～日程第十一 請願第1号～請願第11号については、教育委員会としては、請願への採択、不採択の判断を行わず、

教科書採択の結果及び教科書選定作業の概要を通知することをもって審議終了とすることをご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、そのように決定いたします。
それでは、委員会の途中ではございますが、議事運営の都合により、暫時休憩いたします。なお、青木委員はご都合により、ここで退席となります。
休憩後は、日程第十三から再開いたします。
再開は、午後 1 時 3 5 分といたします。ありがとうございました。

(休憩)

教 育 長 それでは、委員会を再開いたします。

○議事

日程第十三 議案第 3 8 号 学校職員服務規程の一部を改正する訓令

(指導室)

教 育 長 日程第十三 議案第 3 8 号「学校職員服務規程の一部を改正する訓令」について、次長と指導室長から説明願います。

次 長 それでは、「議-13」をご覧いただきたいと思います。
議案第 3 8 号「学校職員服務規程の一部を改正する訓令」でございます。
提出日でございますが、令和 2 年 7 月 3 0 日。
提出者でございますが、板橋区教育委員会教育長、中川修一でございます。
中身の詳細につきましては、指導室長の方からご説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

指 導 室 長 学校職員服務規程の一部改正についてご説明いたします。
「国の労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律」の改正により、令和 2 年 6 月 1 日に、職場におけるパワー・ハラスメント対策が法制化され、雇用管理上、必要な措置を講じることが事業主の義務となりました。

また、東京都教育委員会は、「東京都立学校職員服務規程」を改正し、パワー・ハラスメントの禁止を新たに規定いたしました。これに伴い、本区でもパワー・ハラスメントの禁止について新たに規定するため、「学校職員服務規程の一部改正」についてご審議いただくものです。

新旧対照表をご覧ください。

現行の規定では、セクシュアル・ハラスメントの禁止と妊娠・出産・育児または介護に関するハラスメントの禁止を規定しております。そこにパワー・ハラス

メントの禁止事項を新たに規定するものでございます。
新たに規定する内容は、記載のとおりでございます。
説明は以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
よろしいでしょうか。

(はい)

教 育 長 それでは、お諮りいたします。日程第十三 議案第38号については、原案
のとおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、そのように決定いたします。

○臨時代理

1. 意見の聴取について

(臨-1・教育総務課)

教 育 長 それでは、臨時代理の議題に入ります。臨時代理(1)意見の聴取について、
教育総務課長から説明願います。

教育総務課長 意見の聴取を臨時代理で処理をしました。

資料は「臨-1」でございます。それから説明資料がございます。この2点をお
開きいただきたいと思います。

意見聴取につきまして、区長よりございまして、教育長が臨時に代理処理をし、
区長原案に同意をしております。

決定日は、7月22日でございます。

意見聴取のあった案件は、令和2年度東京都板橋区一般会計補正予算(第4
号)でございます。

今回の補正につきましても、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付
金に基づく緊急対策に要する経費を計上しているものでございます。

17億3,000万円の増額補正をしております。

教育関係についても補正がございますので、そちらを説明いたします。

説明資料の方をお開きください。

歳出予算で、教育費、補正額の欄でございます。7,507万4,000円の
増額補正をしております。

内訳でございますが、教育総務費としまして、2,170万円。こちらにつき
ましては、修学旅行、それからスキー教室などの宿泊行事を中止しておりまして、
それに伴うキャンセル料について公費負担するというところで計上しております。

次に、小学校費、それから中学校費でございますが、それぞれ就学援助費につきまして、所得が激減した家庭に対して特例的に給付を行うということで、その経費を計上しているものでございます。

金額につきましては、記載のとおりでございます。

最後に、幼稚園費でございますが、こちらにつきましては、3月から5月にかけて私立幼稚園を臨時休業している間がございましたが、その間の預かり保育の経費、具体的には、預かり保育を実施しなくてもかかる経費ということで、人件費を公費で補助するというで計上しているものでございます。

上段の振興費と下段の事業費で分かれておりますが、上段は、子ども・子育て支援新制度の移行前の幼稚園25園の分でございます。下段については新制度移行後の7園分ということで、科目が分かれておりますが、内容は同様でございます。

これら教育費関係予算の財源についても、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」により全額充当されます。

説明は以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
よろしいでしょうか。

(はい)

○報告事項

1. 「板橋区立学校園教職員ハラスメント防止の指針」の策定について

(指-1・指導室)

教 育 長 それでは、報告事項を聴取します。報告1「「板橋区立学校園教職員ハラスメント防止の指針」の策定について」、指導室長から報告願います。

指 導 室 長 「板橋区立学校園教職員ハラスメント防止の指針」の策定についてご説明いたします。

区立学校園におきましては、平成29年度に改定した「職場におけるハラスメントの防止について」に基づき、ハラスメントの防止及び良好な職場環境づくりに取り組んでまいりました。

先ほど付議いたしました学校職員服務規程に基づき、職場におけるハラスメント対策をさらに強化するために、従来の「職場におけるハラスメントの防止について」にかわり、「板橋区立学校教職員ハラスメント防止の指針」を新たに作成いたしました。

7/17、8/17ページをご覧ください。

ハラスメントの定義や事例などにつきましては、従来の通知でも示していましたが、特に今回はパワー・ハラスメント、いわゆるパワハラについて、法改正に伴い、厚生労働省が示した指針に合わせた表現に整理しております。

12/17、13/17ページをご覧ください。

ハラスメント相談窓口は、従来より教育支援センターの学校相談窓口としており、相談内容により、相談者を所管する課が対応することについては変更ございません。

11/17ページをご覧ください。

策定に当たりましては、区職員と同様の取扱いとすることから、総務部人事課が作成した「板橋区職員ハラスメント防止の指針」を基に、文部科学省から示された学校職場における留意点を踏まえ、教職員向けとなるように追記・修正を行いました。

具体的には、管理監督者及び教職員の責務として、(4)ハラスメントに類する言動は、当然、幼児、児童・生徒及びその保護者並びに教育実習生などに対しても行ってはならない。

(5) 苦情相談窓口以外にも、身近な人に相談ができることを教職員に周知する。相談があった際には、当該教職員の所管課と情報共有し、協力して解決に向けて対応すると追記しております。

14/17ページをご覧ください。

また、今年6月には東京都教育委員会の教職員の主な非行に対する標準的な処分量定が改正され、非行の種類にパワー・ハラスメントが追加されたことを踏まえ、本指針にも懲戒処分に係る記載を盛り込んでおります。

なお、本指針は学校園長宛に通知したほか、教育ネットワーク、連絡掲示板にも掲載しております。あわせて、2学期には学校園長を対象としたハラスメント研修を実施する予定でございます。

引き続き、事務局と学校園が一体となって、ハラスメントの発生防止及び良好な職場環境づくりに一層取り組んでまいります。

説明は以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

室長、今の言葉の中に、東京都教育委員会の服務規程の中に、新たにこのパワー・ハラスメントがということは、今まではパワハラの規程がなかったということによろしいですか。

指 導 室 長 従来までは、性的行為・セクシュアル・ハラスメント等というつくりしかございませんでした。そこに新たにパワー・ハラスメントが加わったものでございます。

教 育 長 そうすると、「等」という中に入っていたというふうな認識で良いのでしょうか。それともパワー・ハラスメントというのが本当に新たに入ったということですか。

指 導 室 長 色々、人事部の方とやりとりする中では、パワー・ハラスメントについては

含まれていないような扱いをしていたと思います。そこを明らかにしたというのが大きな改正かと思います。

教 育 長 ありがとうございました。
 よろしいでしょうか。

(はい)

○報告事項

2. 同一の学びのエリア内の全ての学校に係る一のコミュニティ・スクール委員会の設置について

(地－1・地域教育力推進課)

教 育 長 それでは、報告2「同一の学びのエリア内の全ての学校に係る一のコミュニティ・スクール委員会の設置について」、地域教育力推進課長から報告願います。

地域教育力推進課長 よろしくお願います。資料「地－1」をご覧ください。

「同一の学びのエリア内の全ての学校に係る一のコミュニティ・スクール委員会の設置について」ということで、板橋区立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則、こちらの第6条に規定しておりますコミュニティ・スクール委員会を下記のとおり設置したということ、こちらは今まで1校に1つの設置となっていたもののコミュニティ・スクール委員会が、板橋第四小学校と板橋第五中学校2校、この学びのエリアで1つの委員会が設置されたということのご報告でございます。

記書きをご覧ください。

同一の学びのエリア内、板橋区立板橋第四小学校と、同じく板橋第五中学校、こちらの学びのエリアの、こちら2校で全校なのですが、全校で統一のスクール委員会の設置ということ、設置年月日は令和2年7月14日、設置校一覧としては別紙のとおりとなっております。

関係法規としましては、こちらに記載のものに基づいて行っているところです。説明は以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
 よろしいでしょうか。

(はい)

○報告事項

3. あいキッズ利用料改定の検討結果について

(地－2・地域教育力推進課)

教 育 長 それでは、報告3「あいキッズ利用料改定の検討結果について」、地域教育

力推進課長からご報告願います。

地域教育力推進課長

それでは、あいキッズ利用料改定の検討結果についてご説明をいたします。

冒頭リード文記載のとおり、平成26年度に新あいキッズ制度が運営を開始いたしました。その当時から現在に至るまで、利用料の改定が行われず、このときに設定いたしました費用に対して負担割合を10%とするという考え方のもと、現在に至っております。

その後、保育料ということで、同様、民間保育所の保育料につきましては、平成30年度に、一度、負担割合を11.5%とします改定を実施しておりますが、その際、あいキッズ利用料についてはあえて行わなかったということもありまして、今回、区全部の使用料、手数料というものが、検討会を設置して4年に1回改定をされるのですが、それが今年度でした。そのタイミングに合わせて、改定をするということで準備を重ねておりました。

結論といたしましては、改定については、今般のコロナに関する様々な区民生活への深刻な打撃を受けることを鑑みまして、改定を見送るという結論に達しておりますが、一定、受益者負担というところにおきましては、改定をする場合の考え方、そちらはお示しをさせていただいて先送りということになりますので、そちらの説明をさせていただきたいと思っております。

まず、1、利用区分における現在の利用料ということで、こちら(1)(2)に記載のとおり、現在の利用料は、平日午後5時から6時までのきらきらタイムAと、同じく5時から7時までのきらきらタイムB、そして土曜日となりますきらきらタイムS、こちらの3つの時間区分で利用料を有料としております

(2)に利用料の構造を記載しております。

利用料は、きらきらタイムAとBが月額制、Sが日額制となっておりますが、内訳がございまして、いわゆる保育料相当というものが「育成料」と呼ばれております。それ以外に、補食費ということで別建てになっております。

2にあります改定の考え方にありますように、今回の改定の対象範囲は、この内訳のうち育成料部分、こちらについて改定を検討したものでございます。

2の(2)の改定概要に改定の考え方というものを示しておりますが、直近の運営経費の決算値が平成30年度になりますので、そちらの数値を基に、1人当たりの1時間単価、コストを1カ月分に直した上で、その1カ月分のコストの保護者の負担割合を13%とするものを新たな月額利用料ということにしました。

この13%というのは、従来からの区の認可保育施設の保育料の他区の平均値、こちらを今回も利用して、その最新の数値が13%ということで、この数値を準用するものでございます。

(3)の新たな利用料金。

その考え方に基きまして、新たな利用料金を現時点の段階で試算してみますと、まず、きらきらタイムA月額が2,900円になります。これは育成料が1,200円から1,400円に上がるものでございます。

その下、きらきらタイムBが月額4,300円。こちらは育成料が2,400

円から2, 800円に改定されるものでございます。

最後に、きらきらタイムSが月額800円。こちらは育成料が615円から715円に改定されるものです。

それぞれの改定率は、きらきらタイムAが7.4%のアップ、Bが10.3%のアップ、Sが14.3%のアップということになります。

最後に、3の検討結果ということで、冒頭申し上げましたように、様々な影響を鑑みまして、値上げをする場合この考え方で数字としては今申し上げた金額になりますが、この改定は見送らせていただくということで、今後の改定時期については経済の状況を見極めながらということにいたします。

最後に、この利用料の改定以外にも幾つか課題がありまして、1つは、土曜区分が月額制なのですが、それを月額制に変更することの可否。

もう1つは、有料の区分はご紹介しております3つの区分なのですが、これ以外にも、きらきらタイムC、きらきらタイムD、またはさんさんタイムのオレンジといったように非常に複雑な区分が存在しておりますので、こちらの方の簡素化もあわせて検討したいと思っております。

検討の結果は、利用料の改定とあわせて実施できたらということで考えたいと思っております。

説明は以上です。

教 育 長 ありがとうございます。
 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

高 野 委 員 この利用料金の改定の件、それが先送りになったという点は理解しました。
 最後に、今、課長がおっしゃった、あいキッズの区分ですとか、利用のことがすごく細かく分かれていて、分かりづらいと思っています。もう1つ、土曜日を見ていると、利用している子どもが1人、2人というところも見かけます。制度ができてだんだんと変わってきたと思うので、不都合な部分や、分かりづらい部分を、この際、しっかりと整理していただいて、分かりやすく、利用しやすい制度になるように検討していただきたいと思います。

地域教育力推進課長 今回、利用料を、一定程度負担をいただくということにおきましては、制度自体の再確認ですとか、コストの削減といったものもあわせてもちろんやらなければいけないと思いますので、おっしゃっていただいたようなことをしっかり検討して、この事業に反映させたいと思います。

教 育 長 そのほか、いかがでしょうか。
 よろしいですか。

(はい)

○報告事項

4. 西台図書館および東板橋図書館の臨時休館について

(図－1・中央図書館)

教 育 長 それでは、報告4「西台図書館および東板橋図書館の臨時休館について」、中央図書館長から報告願います。

中央図書館長 ご説明いたします。資料「図－1」をご覧ください。

西台図書館と東板橋図書館の臨時休館のご報告でございます。

1、西台図書館につきましては、令和2年9月7日から9月19日までの13日間。

休館理由としましては、トイレ洋式化工事等の実施のためです。

2、東板橋図書館については、令和2年9月30日から11月2日まで。

このうち9月30日と11月2日はもともと定期休館日に当たっている日でしたので、今回、お諮りする臨時休館に当たるのは10月1日から11月1日までになります。

こちらの休館の理由は、エレベーターの更新工事及びトイレ洋式化工事をするためのものがございます。

根拠規定は記載のとおりでございます。

報告は以上です。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
よろしいでしょうか。

(はい)

○報告事項

5. 図書館指定管理社の評価委員会による評価の実施

(図－2・中央図書館)

教 育 長 それでは、続いて、報告5「図書館指定管理者の評価委員会による評価の実施」について、中央図書館長から報告願います。

中央図書館長 続いて、ご説明します。「図－2」の資料をご覧ください。

図書館の指定管理者の評価委員会による評価の実施でございます。

指定管理事業者、5年の協定を結びまして、その3年目に当たる今年度に、図書館の指定管理者、その管理運営業務全般が適正に管理運営されているか、客観的に評価・検証を行いまして、その結果を施設の管理運営に反映させていくという評価委員会の実施でございます。

指定管理者は3社、赤塚・高島平・成増図書館を所管します株式会社図書館流通センター、また、清水・蓮根・西台・志村図書館を所管します株式会社ヴィアックス、氷川・東板橋・小茂根図書館を指定管理運営しておりますナカバヤシ

株式会社東京本社でございます。

7番になります。実施時期につきましては、第1回評価委員会を9月3日に予定しております。現地での実施でございます。

3回予定しておりまして、3回目は、(3)の令和2年10月26日に総合評価を示す予定です。評価の報告につきましては、12月の当教育委員会において実施したいと思っております。

報告は以上です。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
よろしいでしょうか。

(はい)

教 育 長 ありがとうございます。
次に、教育委員会次第にはございませんが、追加報告事項はありますでしょうか。
よろしいですか。

(はい)

教 育 長 それでは、以上をもちまして、本日の教育委員会を終了いたします。
ありがとうございます。

午後 1時 57分 閉会